

履修ガイド & シラバス

令和4年度



ヤマザキ動物専門学校

シラバス

令和4年度 履修ガイド&シラバス 目次

教育基本方針	1
履修ガイド	
愛玩動物看護学科のカリキュラムについて	2
Ⅰ 授業と履修	2
1. 授業科目の構成	
2. 授業科目の区分	
3. 授業形式の区分と単位数換算	
4. 学期と時間割	
5. 欠席届	
6. 進路変更	
7. 休講	
8. 事務連絡と事務取扱時間	
Ⅱ 試験と評価	5
1. 試験の種類	
2. 受験手続	
3. 受験注意事項	
4. 試験結果の発表と成績評価	
Ⅲ 学籍	7
1. 休学	
2. 復学	
3. 退学	
4. クラスアドバイザー制度	
Ⅳ 進級・卒業	8
1. 進級・卒業	
シラバス	
令和4年度入学者対象カリキュラム表	9
愛玩動物看護師法 第三十一条第一号の規定に基づく指定科目	10
令和3年度入学者対象カリキュラム表	11
愛玩動物看護師法 附則第二条第一号イ及びロの規定に基づく指定科目	12
授業科目 一覧	13
学則	
ヤマザキ動物専門学校 学則	91

教育基本方針

建学の精神

「生命への畏敬」

「職業人としての自立」

“人間は地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ”
この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。

教育理念

「生命（いのち）を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定および専門士授与に関する方針）

修業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。

1. 本校の建学の精神及び教育理念を理解し、人と動物の架け橋となる愛玩動物看護師としての使命感を有する。
2. 動物看護学の基礎的・応用的知識と技術を身につけている。
3. 人と動物の共生社会において必要なコミュニケーション能力を身につけている。
4. 動物愛護・福祉に基づいた動物の適正飼養の普及および公衆衛生に貢献する能力を身につけている。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーを教育課程に反映させるため教養教育科目、専門基礎科目、専門科目（選択科目を含む）の3科目群からカリキュラムを構成する。

1. 教養教育科目では、愛玩動物看護師に必要な教養を俯瞰的に学び、社会的自立を図るために必要な能力を養う。
2. 専門基礎科目では、動物看護学の基礎的知識と技術を学び、愛玩動物看護師に必要な能力を養う。
3. 専門科目では、動物看護・福祉に基づいた動物看護、検査、グルーミング、トレーニング等の専門的知識と技術を養う。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 本校の建学の精神および教育理念に共感する者。
2. 動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者。
3. 動物看護学に興味を持ち、専門知識と技術を学ぶための基礎学力を有する者。
4. 愛玩動物看護師を目指し、広い視野に立ち、コミュニケーションを大切にする者。

履修ガイド

令和4年度入学対象 愛玩動物看護学科カリキュラム表

愛玩動物看護学科									
区分	授業科目	必修 の別	1年次		2年次		3年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養 教育 科目	生物学	必	30						
	動物文化論	必					30		
	動物とアートⅠ	必	10						
	動物とアートⅡ	必				20			
	キャリアマネジメント	必				30			
	英語	必	15	15					
	コンピュータリテラシⅠ（基礎）	必	15	15					
	コンピュータリテラシⅡ（応用）	必					30		
	アセンブリーアワーⅠ	必	15	15					
	アセンブリーアワーⅡ	必			15	15			
	アセンブリーアワーⅢ	必					15	15	
小計（時限）			85	45	35	45	75	15	
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	生命倫理・動物福祉	必	15	15				
		動物形態機能学Ⅰ	必	30	30				
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	必			30	30		
		動物繁殖学	必					30	
		動物行動学	必			30			
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	必			30			
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必					30	
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必				30	30	
		動物看護関連法規	必				15		
		動物愛護・適正飼養関連法規	必					15	
		動物看護学概論	必	30					
		動物病理学	必			30			
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	必			30			
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必				30		
		動物感染症Ⅰ（免疫学）	必		30				
		動物感染症Ⅱ（微生物学）	必			30			
		動物感染症Ⅲ（感染症学）	必					30	
		公衆衛生学Ⅰ	必				30		
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必					30	
		小計（時限）		75	75	120	120	165	75

愛玩動物看護学科									
区分		授業科目	必修 の別	1年次		2年次		3年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門 教育 科目	専 門 科 目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	必	15	15				
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	必			30	30		
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	必			30			
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	必					30	
		動物臨床看護学総論	必	15	15				
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	必		30				
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	必			30	30		
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	必					30	
		動物臨床検査学	必	15	15				
		動物医療コミュニケーション	必		30				
		愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	必	30					
		愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	必		30				
		コンパニオンアニマルケア論	必			30			
		ドッグトレーニング論	必				30		
		人と動物の関係学	必						30
		適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	必					30	
		適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	必						30
		動物生活環境学	必						30
		ペット関連産業概論	必						30
		動物看護ソーシャルワーク	必						30
		動物看護学総合	必						30
		動物形態機能学実習	必		30				
		動物内科看護学実習	必	60	60				
		動物応用看護学実習	必			30	30		
		動物臨床検査学実習	必	30	30				
		動物外科看護学実習	必			60	30		
		動物臨床看護学実習	必					30	30
		動物愛護・適正飼養実習	必	60					
		動物看護総合実習Ⅰ	必	30	30				
		動物看護総合実習Ⅱ	必			30	30		
		動物看護総合実習Ⅲ	必					30	30
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	必		60				
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	必			45	45		
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	必					30	
		ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	必	30	30				
		ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	必			45	45		
		動物生活環境学実習	必			30			
		動物看護実習（動物看護コース）	必選						60
		ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	必選						60
		小計（時限）			300	360	330	300	180
選 択	動物実習短期留学	選	30						
	研修・ボランティア活動	選	30						
	小計（時限）		60						
1時限時間数（分）			45	45	45	45	45	45	
必修科目授業時数			460	480	485	465	420	330	
必修選択科目授業時数								60	
卒業に必要な総授業時数			460	480	485	465	420	390	
教養科目・専門科目・総合科目合計			940		950		810		
（必修選択科目の履修方法）									
第3学年においては、必修選択科目（動物看護コースまたはペット関連産業コース）のどちらか一方を選択し履修すること。									

令和4年度入学生対象 愛玩動物看護師法 第三十一条第一号の規定に基づく指定科目

主務省により指定されている国家試験受験に必要な科目と、対応する本校の授業科目を記載しています。

該当する科目には、シラバス科目名の横に **国試指定科目** と記載し、その科目の到達目標・授業概要を記載しています

愛玩動物看護師法 第三十一条第一号 規定に基づく指定科目		単位時間	左記に対応する本校の授業科目		単位時間
1	基礎動物学	360	1	基礎動物学	360
①	生命倫理・動物福祉	30	①	生命倫理・動物福祉	30
②	動物形態機能学	120	②	動物形態機能学Ⅰ	60
				動物形態機能学Ⅱ（生理学）	60
③	動物繁殖学	30	③	動物繁殖学	30
④	動物行動学	30	④	動物行動学	30
⑤	動物栄養学	60	⑤	動物栄養学Ⅰ（基礎）	30
				動物栄養学Ⅱ（臨床）	30
⑥	比較動物学	60	⑥	比較動物学（展示動物、産業動物、実験動物）	60
⑦	動物看護関連法規	15	⑦	動物看護関連法規	15
⑧	動物愛護・適正飼養関連法規	15	⑧	動物愛護・適正飼養関連法規	15
2	基礎動物看護学	270	2	基礎動物看護学	270
①	動物看護学概論	30	①	動物看護学概論	30
②	動物病理学	30	②	動物病理学	30
③	動物薬理学	60	③	動物薬理学Ⅰ（基礎）	30
				動物薬理学Ⅱ（応用）	30
④	動物感染症学	90	④	動物感染症学Ⅰ（免疫学）	30
				動物感染症学Ⅱ（微生物学）	30
				動物感染症学Ⅲ（感染症学）	30
⑤	公衆衛生学	60	⑤	公衆衛生学Ⅰ	30
				公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	30
3	臨床動物看護学	360	3	臨床動物看護学	360
①	動物内科看護学	90	①	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	30
				動物内科看護学Ⅱ（応用）	60
②	動物外科看護学	60	②	動物外科看護学Ⅰ（基礎）	30
				動物外科看護学Ⅱ（応用）	30
③	動物臨床看護学総論	30	③	動物臨床看護学総論	30
④	動物臨床看護学各論	120	④	動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	30
				動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	60
				動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	30
⑤	動物臨床検査学	30	⑤	動物臨床検査学	30
⑥	動物医療コミュニケーション	30	⑥	動物医療コミュニケーション	30
4	愛護・適正飼養学	210	4	愛護・適正飼養学	210
①	愛玩動物学	60	①	愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	30
				愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	30
②	人と動物の関係学	30	②	人と動物の関係学	30
③	適正飼養指導論	60	③	適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	30
				適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	30
④	動物生活環境学	30	④	動物生活環境学	30
⑤	ペット関連産業概論	30	⑤	ペット関連産業概論	30
5	実習	600	5	実習	600
①	動物形態機能学実習	30	①	動物形態機能学実習	30
②	動物内科看護学実習	120	②	動物内科看護学実習	120
③	動物臨床検査学実習	60	③	動物臨床検査学実習	60
④	動物外科看護学実習	90	④	動物外科看護学実習	90
⑤	動物臨床看護学実習	60	⑤	動物臨床看護学実習	60
⑥	動物愛護・適正飼養実習	60	⑥	動物愛護・適正飼養実習	60
⑦	動物看護総合実習	180	⑦	動物看護総合実習Ⅰ	60
				動物看護総合実習Ⅱ	60
				動物看護総合実習Ⅲ	60

令和3年度入学対象 愛玩動物看護学科カリキュラム表

愛玩動物看護学科								
区分	授業科目	必修 の別	1年次		2年次		3年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養 教育 科目	生物学	必	30					
	動物文化論	必					30	
	動物とアートⅠ	必	10					
	動物とアートⅡ	必				20		
	キャリアマネジメント	必				30		
	英語	必		30				
	コンピュータリテラシⅠ（基礎）	必	30					
	コンピュータリテラシⅡ（応用）	必					30	
	アセンブリーアワーⅠ	必	15	15				
	アセンブリーアワーⅡ	必			15	15		
	アセンブリーアワーⅢ	必					15	15
小計（時限）			85	45	35	45	75	15
専門 教育 科目	専門 基礎 科目	生命倫理・動物福祉	必	15	15			
		動物形態機能学Ⅰ	必	40	40			
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	必			20	20	
		動物繁殖学	必					30
		動物行動学	必			30		
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	必			30		
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必					30
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必				30	30
		動物看護関連法規	必				15	
		動物愛護・適正飼養関連法規	必					15
		動物看護学概論	必	30				
		動物病理学	必			30		
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	必			30		
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必				30	
		動物感染症Ⅰ（免疫学）	必		30			
		動物感染症Ⅱ（微生物学）	必			30		
		動物感染症Ⅲ（感染症学）	必					30
		公衆衛生学Ⅰ	必				30	
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必					30
		小計（時限）	75	75	120	120	165	75

愛玩動物看護学科										
区分	授業科目	必修 の別	1年次		2年次		3年次			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門 教育 科目	専門 科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	必	15	15					
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	必			30	30			
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	必			30				
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	必					30		
		動物臨床看護学総論	必	15	15					
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	必		30					
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	必			30	30			
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	必					30		
		動物臨床検査学	必	30						
		動物医療コミュニケーション	必		30					
		愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	必	30						
		愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	必		30					
		コンパニオンアニマルケア論	必			30				
		ドッグトレーニング論	必				30			
		人と動物の関係学	必						30	
		適正飼養指導Ⅰ（適正飼養）	必					30		
		適正飼養指導Ⅱ（動物災害・危機管理）	必						30	
		動物生活環境学	必						30	
		ペット関連産業概論	必						30	
		動物看護ソーシャルワーク	必						30	
		動物看護学総合	必						30	
		動物形態機能学実習	必		30					
		動物内科看護学実習	必	60	60					
		動物応用看護学実習	必			30	30			
		動物臨床検査学実習	必	30	30					
		動物外科看護学実習	必			60	30			
		動物臨床看護学実習	必					30	30	
		動物愛護・適正飼養実習	必	60						
		動物看護総合実習Ⅰ	必	30	30					
		動物看護総合実習Ⅱ	必			30	30			
		動物看護総合実習Ⅲ	必					30	30	
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	必		60					
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	必			45	45			
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	必					30		
		ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	必	30	30					
		ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	必			45	45			
		動物生活環境学実習	必			30				
		動物看護実習（動物看護コース）	必選							60
		ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	必選							60
		小計（時限）		300	360	330	300	180	300	
選択	動物実習短期留学	選					30			
	研修・ボランティア活動	選					30			
	小計（時限）						60			
1時限時間数（分）				45	45	45	45	45	45	
必修科目授業時数				460	480	485	465	420	330	
必修選択科目授業時数									60	
卒業に必要な総授業時数				460	480	485	465	420	390	
教養科目・専門科目・総合科目合計					940		950		810	
（必修選択科目の履修方法）										
第3学年においては、必修選択科目（動物看護コースまたはペット関連産業コース）のどちらか一方を選択し履修すること。										

令和3年度入学生対象 愛玩動物看護師法 附則第二条第一号イ及びロの規定に基づく指定科目

主務省により指定されている国家試験受験に必要な科目と、対応する本校の授業科目を記載しています。

該当する科目には、科目名の横に **国試指定科目** と記載し、その科目の到達目標・授業概要を記載しています

愛玩動物看護師法 附則第二条第一号イ及びロ 規定に基づく指定科目		単位時間	左記に対応する本校の授業科目	単位時間
1	動物形態機能学	1650	1 動物形態機能学Ⅰ	80
			動物形態機能学Ⅱ（生理学）	40
2	動物繁殖学		2 動物繁殖学	30
3	動物病理学		3 動物病理学	30
4	動物薬理学		4 動物薬理学Ⅰ（基礎）	30
			動物薬理学Ⅱ（応用）	30
5	動物感染症学		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	30
			動物感染症学Ⅱ（微生物学）	30
			動物感染症学Ⅲ（感染症学）	30
6	動物看護学概論		6 動物看護学概論	30
7	動物医療関連法規		7 動物看護関連法規	15
			動物愛護・適正飼養関連法規	15
8	公衆衛生学		8 公衆衛生学Ⅰ	30
			公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	30
9	人間動物関係学		9 人と動物の関係学	30
10	動物福祉・倫理		10 生命倫理・動物福祉	30
11	動物行動学		11 動物行動学	30
12	伴侶動物学		適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	30
			適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	30
			愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	30
			愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	30
13	産業動物学		13 比較動物学（展示動物、産業動物、実験動物）	60
14	実験動物学		14 比較動物学（展示動物、産業動物、実験動物）	－
15	野生動物学		15 比較動物学（展示動物、産業動物、実験動物）	－
16	動物内科看護学		16 動物内科看護学Ⅰ（基礎）	30
			動物内科看護学Ⅱ（応用）	60
17	動物外科看護学		17 動物外科看護学Ⅰ（基礎）	30
			動物外科看護学Ⅱ（応用）	30
18	動物臨床看護学総論		18 動物臨床看護学総論	30
19	動物臨床看護学各論		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	30
			動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	60
			動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	30
20	動物臨床栄養学		20 動物栄養学Ⅰ（基礎）	30
			動物栄養学Ⅱ（臨床）	30
21	動物臨床検査学		21 動物臨床検査学	30
22	動物医療コミュニケーション		22 動物医療コミュニケーション	30
23	動物形態機能学実習		23 動物形態機能学実習	30
24	動物内科看護学実習		24 動物内科看護学実習	120
			動物愛護・適正飼養実習	60
25	動物外科看護学実習		25 動物外科看護学実習	90
26	動物臨床看護学実習		26 動物臨床看護学実習	60
27	動物臨床検査学実習		27 動物臨床検査学実習	60
28	動物看護総合実習		28 動物看護総合実習Ⅰ	60
			動物看護総合実習Ⅱ	60
			動物看護総合実習Ⅲ	60

授業科目 目次 (令和4年度開講 1・2年次授業科目)

		科 目 名	略語	講 師	必 選 の 別	単 位 数	時 限 数	学 年	時 期	ペ ー ジ 数
教 養 教 育 科 目		生物学	生物	寺内聖治	必	2	30	1学年	前期	15
		動物とアートⅠ	アート	松岡ジュネ	必	1	10	1学年	前期	16
		動物とアートⅡ	アート	松岡ジュネ	必	1	20	2学年	後期	17
		キャリアマネジメント	キャリア	佐藤恵子/福田美香/神山由紀子	必	2	30	2学年	後期	18
		英語	英語	浅井みどり	必	2	30	1学年	通年	19
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	COMP	藤澤雄大	必	1	30	1学年	通年	20
		アッセンブリーアワーⅠ	AH	橋本直子/菅直子/望月有紗	必	2	30	1学年	通年	21
		アッセンブリーアワーⅡ	AH	伊藤真紀/竹尾恵	必	2	30	2学年	通年	22
専 門 基 礎 科 目		生命倫理・動物福祉	倫理	山北宣久/菅野多恵*	必	2	30	1学年	通年	23
		動物形態機能学Ⅰ	形態	鈴木勝	必	5	60	1学年	通年	25
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	形態	鈴木勝	必	2	40	2学年	通年	29
		動物行動学	行動	菅直子/嶋田三那子	必	2	30	2学年	後期	30
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	栄養	坂根弘	必	2	30	2学年	後期	32
		動物看護学概論	概論	小野貴子*	必	2	30	1学年	前期	34
		動物病理学	病理	小山美弥*	必	2	30	2学年	前期	36
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	薬理	竹村富美代*	必	2	30	2学年	前期	38
		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	免疫	小野貴子*	必	2	30	1学年	後期	41
		動物感染症学Ⅱ（微生物学）	微生物	池田純子	必	2	30	2学年	前期	43
		公衆衛生学Ⅰ	公衆	竹村富美代*	必	2	30	2学年	後期	44
		動物内科看護学Ⅰ（基礎）	内科	橋本直子/藤波由香/浴本涼子*/竹尾恵 梅田麻実/菅尾玲奈	必	2	30	1学年	通年	46
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	内科	橋本直子/藤波由香/浴本涼子*/竹尾恵 梅田麻実/菅尾玲奈	必	4	60	2学年	通年	49
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	外科	小野貴子*/武藤真	必	2	30	2学年	通年	51
	動物臨床看護学総論	看護総論	橋本直子/藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/菅尾玲奈	必	2	30	1学年	通年	54	
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	看護各論	橋本直子/浴本涼子*	必	2	30	1学年	後期	56
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	看護各論	橋本直子/浴本涼子*/高柳信子*	必	4	60	2学年	通年	59
		動物臨床検査学	検査	菅尾玲奈/藤原恵利子*/矢野実季子*	必	2	30	1学年	通年	61
		動物医療コミュニケーション	CM	藤波由香/竹尾恵/梅田麻実/菅尾玲奈/中村晶*	必	2	30	1学年	後期	63
		愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	愛玩動物	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子/望月有紗 すずき莉萌*/高野八重子*	必	2	30	1学年	前期	65
		愛玩動物学Ⅱ （エキゾチックアニマル特性・ケア）	愛玩動物 （エキゾ）	霍野晋吉*	必	2	30	1学年	後期	67
		コンパニオンアニマルケア論	CAC論	伊藤真紀/望月有紗/高野八重子*	必	2	30	2学年	前期	68
		ドッグトレーニング論	トレ論	菅直子/嶋田三那子	必	2	30	2学年	後期	69
		動物形態機能学実習	形態実習	橋本直子/藤波由香/浴本涼子*/竹尾恵 梅田麻実/菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	30	1学年	後期	70
		動物内科看護学実習Ⅰ	内科実習	橋本直子/藤波由香/浴本涼子*/竹尾恵 梅田麻実/菅尾玲奈/渡辺彩希	必	4	120	1学年	通年	72
		動物応用看護学実習	応用実習	橋本直子/藤波由香/浴本涼子*/竹尾恵 梅田麻実/菅尾玲奈/渡辺彩希	必	2	60	2学年	通年	75
		動物臨床検査学実習	検査実習	菅尾玲奈/矢野実季子*/橋本直子/藤波由香 浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実/渡辺彩希	必	2	60	1学年	通年	76
		動物外科看護学実習	外科実習	橋本直子/藤波由香/浴本涼子*/竹尾恵 梅田麻実/菅尾玲奈/渡辺彩希	必	3	90	2学年	通年	78
		動物愛護・適正飼養実習	適正飼養実習	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子/望月有紗 寺澤大河/高畑真菜	必	2	60	1学年	前期	80
		動物看護総合実習Ⅰ	総合実習	高柳信子*/有谷恵美*/平岩沙織* 橋本直子/福田美香/神山由紀子	必	2	60	1学年	通年	82
		動物看護総合実習Ⅱ	総合実習	橋本直子/福田美香/神山由紀子	必	2	60	2学年	通年	84
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	CAC実習	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河/高野八重子*/門馬絵美 平田真智子/木下美奈子/茂木彩名/川村真紀子	必	2	60	1学年	通年	85
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	CAC実習	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河/早田由貴子/門馬絵美 平田真智子/木下美奈子/茂木彩名/川村真紀子	必	3	90	2学年	通年	86
		ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	トレーニング	菅直子/嶋田三那子/山本央子*/高畑真菜	必	2	60	1学年	前期	87
		ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	トレーニング	菅直子/嶋田三那子/山本央子*/高畑真菜	必	3	90	2学年	通年	88
		動物生活環境学実習	生活環境実習	南村友紀*/長岡恵/久世よし乃	必	1	30	2学年	通年	89
		必修授業合計						92	1870	
選 択 科 目		動物実習短期留学	短期留学	橋本直子/伊藤真紀	選	1	30	-	通年	90
		研修・ボランティア活動	ボランティア	橋本直子/伊藤真紀	選	1	15	-	通年	90
総 計						94	1915			
実務家教員授業時数							1200			

1時限=45分

《講義》1単位=15時限
《実習》1単位=30時限

授業科目（令和5年度開講 3年次授業科目）

		科 目 名	必 選 の 別	単 位 数	時 限 数	学 年	時 期
教 養 教 育 科 目		動物文化論	必	2	30	3学年	前期
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	必	2	30	3学年	前期
		アセンブリーアワーⅢ	必	2	30	3学年	通年
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎 科 目	動物繁殖学	必	2	30	3学年	前期
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必	2	30	3学年	後期
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必	4	60	3学年	通年
		動物看護関連法規	必	1	15	3学年	前期
		動物愛護・適正飼養関連法規	必	1	15	3学年	後期
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必	2	30	3学年	前期
		動物感染症学Ⅲ（感染症学）	必	2	30	3学年	前期
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必	2	30	3学年	前期
	専 門 科 目	動物外科看護学Ⅱ（応用）	必	2	30	3学年	前期
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	必	2	30	3学年	前期
		人と動物の関係学	必	2	30	3学年	後期
		適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	必	2	30	3学年	前期
		適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	必	2	30	3学年	後期
		動物生活環境学	必	2	30	3学年	後期
		ペット関連産業概論	必	2	30	3学年	後期
		動物看護ソーシャルワーク	必	2	30	3学年	後期
		動物看護学総合	必	2	30	3学年	後期
		動物臨床看護学実習	必	4	60	3学年	通年
		動物看護総合実習Ⅲ	必	4	60	3学年	通年
		コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	必	2	30	3学年	前期
		動物看護実習（動物看護コース）	必選	4	60	3学年	前期
		ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	必選	4	60	3学年	前期

【備考】・講義内容、講師は開講時に発表します
・開講時期および講師は変更となる場合があります

授業科目	生物学		担当教員	寺内 聖治
科目英名	Biology			
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分／形式	教養教育科目 / 講義	
到達目標				
この地球には様々な生物が存在しており、生活様式は多種多様です。授業では生物は共通する仕組みや法則があるという事を学びます。そして、生物に共通する法則を理解することによりヒトという種である自分自身の理解を深めることも目指します。				
授業概要				
全ての生物は細胞からできており、細胞の理解から授業を始める、ゲノム、遺伝子、染色体、代謝、栄養素などの項目により細胞内での現象の理解を深める。体の調節、生殖、発生の項目では生物の体のメカニズムを学ぶ。生態系、生物の進化の項目では様々な生物の中のヒトという形で学んでいく。遺伝子工学の分野では実際の例についても解説していく。				
授業計画				
1 細胞の仕組みと働き(オルガネラ、共生進化、細胞膜)				
2 ゲノムと遺伝子 (DNA、染色体、倍数体、ゲノムの重複と進化)				
3 遺伝子の発現 (調節領域、スプライシング、イントロン、エクソン)				
4 細胞分裂と染色体 (体細胞分裂、減数分裂)				
5 遺伝(メンデル遺伝、伴性遺伝、体細胞遺伝など)				
6 単細胞生物と多細胞生物の違い (細胞、組織、器官、生体)				
7 代謝 (エネルギー代謝、物質代謝、酵素、ATP)				
8 栄養素 (タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン)				
9 体の調節 I (神経による調節)				
10 体の調節 II (ホルモンによる調節)				
11 生殖(有性生殖、無性生殖、単為生殖)				
12 動物の発生(様々な動物の発生における共通点と相違点)				
13 生態系 (環境における生物 生物群 地球のエコシステム)				
14 生物の進化 (化学進化から生物進化、進化の筋道、進化のメカニズム)				
15 突然変異、遺伝子工学(形質転換の要因、遺伝子導入による形質転換)				
履修上の注意				
特になし				
成績評価				
テストあるいはレポート提出(100%)で評価します。				
教科書(授業必携本) / 毎回持参するもの				
授業のためのプリントを配布します。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	動物とアートⅠ		担当教員	松岡 ジュネ
科目英名	Animals in ArtⅠ			
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分／形式	教養教育科目 / 講義	
到達目標				
アートは表現であることを理解し、必ず実践・完成を目標とする。 手を動かし実践していく上で発想がわいてくるということもあるので、必ず完成させて提出する。 2年生での制作に応用できるように理解する。				
授業概要				
動物園でのスケッチや、2年生での作品制作に必要と思われる基礎技術(基礎知識)を講義・実践する。 見てあるがままに描くだけが絵画制作ではないことを知り、制作するために必要と思われる知識・技術(発想方法・色彩・構図・その他)を学ぶ。				
授業計画			持ち物	
1	絵画制作の基礎1:発想(発想力を育てる)デカルコマニー。		スケッチブック	
2	絵画制作の基礎2:色彩の基礎(三原色の原理・絵の具の性質)三原色の虹。		スケッチブック・鉛筆・定規	
3	絵画制作の基礎3:デザイン化(渦巻きの応用と装飾)スパイラルのデザイン。		スケッチブック・鉛筆・定規・色鉛筆	
4	〃 仕上げ		〃	
5	絵画制作の基礎4:プロポーション(犬のプロポーションを考える)イラスト制作		スケッチブック・鉛筆・定規	
履修上の注意(道具について)				
水彩絵の具の道具は2人で1セットを使う。 絵の具を使用する際に汚れる場合があるので、エプロンを持参してもよい。				
成績評価				
作品提出による評価(全4作品)100%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの ・学校が用意するもの				
各自スケッチブック、鉛筆は毎回各自持参すること。その他は持ち物参照。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	動物とアートⅡ		担当教員	松岡 ジュネ
科目英名	Animals in Art Ⅱ			
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	教養教育科目 / 講義	
到達目標				
立体と平面の両作品を制作しながら、アートは表現であることを理解し「人に見せる作品」へ到達できるように工夫する。そのためには完成度の高い作品を制作するように努力する。				
授業概要				
必ず実践・完成を目標とする。1年生の授業の基礎知識・技術として足りないものを学び、それらを応用しながらシュールレアリスムの絵画を制作する。絵画にはいろんな要素で成り立っていることを学ぶ。 ワイヤークラフト制作は楽しみながら、針金を使い自分の好きな動物を「線」で表現してゆく。				
授業計画			持ち物	
1	絵画制作の基礎5:構図法の基礎(遠近法)奥行きのある画面を作る。 一点透視図法による自分の部屋の中		1 スケッチブック・鉛筆 定規・色鉛筆	
2	〃 仕上げ・次回の授業の説明		2 〃	
3	シュールレアリスムの絵画「心象風景と動物たち」 1. シュールレアリスムとは？発想を引き出す方法他		3 スケッチブック・鉛筆	
4	〃	2. 下書き・着色手順	4 〃	
5	〃	3. 着色	5 〃	
6	〃	4. 仕上げ	6 〃	
7	ワイヤーアート針金の彫刻	1. 練習「蝶々等」	7 スケッチブック・鉛筆	
8	〃	2. 動物を作ろう	8 〃	
9	〃	3. 〃	9 〃	
10	〃	4. 〃 仕上げ	10 〃	
履修上の注意				
教材・道具の準備を事前にしっかり行う。材料を無駄にしないように注意すること。(廃棄物を少なくする)				
水彩絵の具は、自分の持ち物がある場合、持参しても良い。 絵の具を使用する際に汚れる場合があるので、エプロンを持参してもよい。				
成績評価				
作品提出による評価(全3～4作品)80%、授業参加度 20% 全 10 回の授業で提出作品が 3～4 点なので、授業参加度も採点に反映し、提出作品が全て提出されていても、欠席が多い人は減点対象とする。(例:シュールレアリスムの授業 4 回の内 3 回欠席の場合、作品を提出していても減点対象になります)。				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
各自スケッチブック、鉛筆は毎回持参すること。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	キャリアマネジメント		担当教員	佐藤 恵子
科目英名	Career Management			福田 美香／神山 由紀子
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	教養教育科目 / 講義	
到達目標				
授業を通して今後の自分のキャリアについて考えて行くことを目標とする。グループワークを通じ、「自己理解」「仕事理解」「仕事選択」をしていく。自分自身のことを考えることで、自分の価値観・興味・能力・可能性を探っていく。また、グループでワークをすることにより、社会人基礎力としての「チームで働く力」を養う。				
授業概要				
社会人基礎力としての「チームで働く力」を学び、チームとしてワークに取り組む中で、互いに支えあい、成長しながら目的に向かっていくことを体験する。また、卒業後の進路を考え、自分の働き方や、社会人としてどのように活躍していきたいのかを考え、具体的な就職活動の準備を行う。				
授業計画				
1 チーム学習を進めるために 話し合いの意義(メルヘン大会)				
2 自己理解 私の大切な物探し				
3 自己理解 私ってどんな人？				
4 自己理解 自分を知る手がかり				
5 自己理解 過去を振り返ろう				
6 自己理解 なぜ働くの？				
7 仕事理解 地図を作ってみよう！				
8 仕事理解 ケーススタディで学ぶ実際の仕事				
9 仕事選択～未来に向けて～ 模擬店を出そう				
10 就活対策 履歴書の書き方①				
11 就活対策 求人先の探し方、電話の作法、連絡・報告・相談				
12 就活対策 面接対策				
13 就活対策 履歴書の書き方②				
14 就活対策 労働法を知ろう				
15 就活対策 就職活動本番に向けて				
履修上の注意				
成績評価				
授業中に発表する課題の提出 80％及び授業参加度 20％。				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
第 1 回目～9 回目 『未来ノート』、ハサミ、のり、赤黒ボールペン、マーカー				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
講義後は各回の内容を復習すること。次回内容の教科書該当部分を読み予習すること。				
担当教員の実務経験				

授業科目	英語		担当教員	浅井 みどり
科目英名	English			
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	教養教育科目 / 講義	
到達目標				
動物看護師としてオーナーさんと英語でコミュニケーションをとるために必要な語彙や表現を身につける。				
授業概要				
動物病院で必要な医療英語と英会話を初診受付、ワクチン接種、避妊と去勢、診察室での対応、薬の説明、会計といった場面ごとに学んでいく。また、海外の人々と接する際のマナー、日本語や日本文化との違いに対する知識も深めていく。				
授業計画				
1	Unit 1: Benny's First Visit to the Vet (初診受付①)			
2	Unit 1: Benny's First Visit to the Vet (初診受付②)			
3	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations (ワクチン接種①)			
4	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations (ワクチン接種②)			
5	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations (ワクチン接種③)			
6	Unit 5: Spaying and Neutering (避妊と去勢①)			
7	Unit 5: Spaying and Neutering (避妊と去勢②)			
8	Unit 5: Spaying and Neutering (避妊と去勢③)			
9	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1) (診察室での対応①)			
10	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1) (診察室での対応②)			
11	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1) (診察室での対応③)			
12	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2) (薬の説明①)			
13	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2) (薬の説明②)			
14	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2) (薬の説明③)			
15	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3) (会計①)			
16	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3) (会計②)			
17	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3) (会計③)			
18	Unit 4 & Unit 9 抜粋&動物病院の英会話総復習			
履修上の注意				
医療英語を学ぶため、辞書を持参すること。				
スマートフォン上の辞書を使用する場合は、必ず担当教員の許可を得ること。				
成績評価				
期末試験:85%、授業参加度:15%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
『Animal Companion—動物専門職のための総合英語—』(南雲堂)				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
事前学習:該当ユニットに目を通し、分らない単語や表現を調べておく。				
事後学習:授業で指摘された単語の意味と発音、会話に必要な表現を分かりやすくまとめ、しっかりと覚える。				
担当教員の実務経験				

授業科目	コンピュータリテラシⅠ（基礎）		担当教員	藤澤 雄大
科目英名	Computer Literacy			
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	教養教育科目 ／ 実習	
到達目標				
Windows コンピュータの基礎操作とマイクロソフトオフィスソフトのエクセル・ワードの基礎知識を身につけます。				
授業概要				
始めにハードウェアやソフトウェア、インターネットについて等の基礎知識から学びます。その後、コンピュータを使用して実務用文書や表計算ソフトの基本的な操作ができるようになるための実習授業を行います。 パワーポイントによる発表も行い、操作方法の習得だけではなく、実践的なプレゼンテーションについても学びます。				
授業計画				
1 インターネット(メール・SNS)の活用方法と注意点 2 ソーシャルネットワークの危険性・ワープロソフトⅠ(ワープロソフトについて、基礎操作方法) 3 ワープロソフトⅡ(応用操作)・表計算ソフトⅠ(基礎操作方法①) 4 表計算ソフトⅡ(基礎操作方法②) 5 表計算ソフトⅢ(基礎操作方法③) 6 プレゼンテーションソフトⅠ(プレゼンテーションソフトについて、基礎操作方法) 7 プレゼンテーションソフトⅡ(プレゼンテーションの作成) 8 プレゼンテーションソフトⅢ(プレゼンテーション発表)				
履修上の注意				
初回授業時に配布されたログインアカウント表を各自持参し、授業開始前に PC へログインしてください。 コンピュータ教室内での飲食は厳禁です。				
成績評価				
授業参加度(80%)と授業態度(20%)により評価します。				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
タイピング管理表(初回授業時に配布します)、ログインアカウント表 各回で配布されたプリント				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	アッセンブリーアワー I		担当教員	橋本 直子
科目英名	Assembly Hours I			菅 直子／望月 有紗
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	教養教育科目／講義	
到達目標				
様々な分野で活躍する講師の講義を通して、社会常識や動物に関わる仕事について視野を広げることを目標とする。 動物に係わる仕事は、動物を介してそれぞれ異なった動物観をもつ人々に関する事であり、特に飼主の年齢層は幅広く、動物観は多様である。人々の持つ動物観の多様性、自らの動物観を考察しながら、どのような場面においても、広い視野と冷静かつ柔軟な思考力を持って対処できる素地を養う。				
授業概要				
本科目は『社会常識』、『様々な動物』から構成される。 1 年生では社会人に必要なマナーやルールといった社会常識と、 ペットだけではなく動物園の動物(展示動物)やヒトのために働く動物について学ぶ。 また、動物分野の資格に関する伝達、文化祭やクラス活動に関する諸連絡も行う。 ネットリテラシーについて 動物分野の資格と現状 創始者記念礼拝 動物愛護について 文化祭(あしあと祭) ※内容及び回数は、今後の社会情勢により変更になる場合がある。				
履修上の注意				
特になし				
成績評価				
授業参加度とレポートにより評価 授業参加度:50% レポート:50%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
配布プリント・ノートや筆記用具等メモをとれるもの				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
講義後は講義内容をレポートにまとめ提出する				
担当教員の実務経験				

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ		担当教員	伊藤 真紀
科目英名	Assembly HoursⅡ			竹尾 恵
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分／形式	教養教育科目／講義	
到達目標				
様々な分野で活躍する講師の講義を通して、社会常識や動物に関わる仕事について視野を広げることを目標とする。 どのような場面においても、広い視野と冷静かつ柔軟な思考力を持って対処できる素地を養い、社会人としての基礎力を身に付ける。自身が取得する動物分野の資格について理解する。				
授業概要				
社会人に必要なマナーやルールといった社会常識と、展示動物や産業動物等について学ぶ。 また、動物分野の資格に関する伝達も行う。				
動物分野の資格と現状 1、2 年金について 救命技能講習 学外施設見学 など ※内容及び回数は、今後の社会情勢により変更になる場合がある。				
履修上の注意				
特になし				
成績評価				
授業参加度とレポートにより評価 授業参加度:50% レポート:50%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
配布プリント・ノートや筆記用具等メモをとれるもの				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
講義後は講義内容をレポートにまとめ提出する				
担当教員の実務経験				

授業科目	国試指定科目	生命倫理・動物福祉	担当教員	山北 宣久
科目英名	Bioethics and Animal Welfare			菅野 多恵
開講期間	1 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目 / 講義
到達目標				
1. 生命倫理の概念				
1)生命倫理の考え方について理解する				
2)生命倫理と獣医療の関わりについて理解する				
2. 動物福祉の概念				
1)動物福祉の考え方について理解する				
2)「5つの自由」(飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由)について理解する				
3)世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する				
4)「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する				
5)動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する				
6)安楽死の考え方について理解する				
3. 愛玩動物の福祉				
1)愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する				
2)国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する				
3)飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する				
4)動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状、対策について理解する				
5)飼養動物の災害時の対応について理解する				
4. 産業動物の福祉				
1)産業動物における福祉上の問題について理解する				
2)国際的な福祉基準について理解する				
3)産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する				
5. 実験動物の福祉				
1)実験動物における福祉上の問題について理解する				
2) 3 R (Replacement (代替)、Reduction(削減)、Refinement(改善))の概念と具体的方法について理解する				
6. 展示動物の福祉				
1)展示動物における福祉上の問題について理解する				
2)展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する				
授業概要				
生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。				

授業科目	国試指定科目 生命倫理・動物福祉	担当教員	山北 宣久 菅野 多恵
科目英名	Bioethics and Animal Welfare		
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
人生を歩んでいくうえで最も大切なのは人間関係である。そしてそれはいのちを生かしあうことであり、それが生命倫理につながる。前半の講義では、そうした実を共に考えていく。また、後半の講義では、動物福祉の基本的概念を理解する。動物の福祉に関する問題点や取り組みを学び、動物看護師としてさまざまな分野での動物の生活の質(QOL)の向上、さらには人と動物のより良い関係の向上に寄与するための基礎知識と応用力を養うことを目標とする。			
授業概要			
前半は、毎回テーマに沿って講義中心で進めるが、質疑応答の時間もとる。また毎回レジュメを配布する。 後半の講義では、動物愛護とは何かを考えたいうで、動物福祉の基本的概念について理解する。産業、実験、野生、展示、伴侶、使役動物といった分類別に動物福祉への配慮の基本や福祉の現状、課題、取り組みなどを学習する。また、犬猫の保護や小動物臨床の現場で必要となる動物への配慮も併せて学ぶ。			
授業計画			
1 人生あれこれ(1) 時間というもののとらえ方(山北) 2 人生あれこれ(2) 人生の二重性(山北) 3 人間とは何か(1) アントロポス(ギリシャ語)とホモ(ラテン語)(山北) 4 人間とは何か(2) 人間をめぐる名言から考える(山北) 5 いのちをめぐる 生命と命 ビオスとゾーエー(山北) 6 愛をめぐる(1) エロース アガペー フィリア カクタス(山北) 7 死をめぐる 死の現実と人間の取りうる態度(山北) 8 安楽死と尊厳死(山北) 9 動物愛護とは(動物愛護の歴史と変遷、さまざまな動物観など)(菅野) 10 動物福祉とは(概念や基本基準、評価方法など)(菅野) 11 産業動物の福祉、実験動物の福祉(福祉的配慮の基本知識、福祉の問題点や対策など)(菅野) 12 野生動物の福祉展示動物の福祉(福祉的配慮の基本知識、福祉の問題点や対策など)(菅野) 13 伴侶動物の福祉使役動物の福祉(福祉的配慮の基本知識、福祉の問題点や対策など)(菅野) 14 犬猫の保護と動物福祉(菅野) 15 小動物臨床と動物福祉(菅野)			
履修上の注意			
第 1～8 回:レジュメに書き込んでいくこと 第 9～15 回:適宜プリントを配布する			
成績評価			
授業参加度 55%、レポート・小テスト・課題 45%			
教科書(授業必携本) / 毎回持参するもの			
特になし			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
愛玩動物看護師コアカリキュラム準拠教科書 4 巻「動物看護学概論 / 人と動物の関係学 / 生命倫理・動物福祉」 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 「応用動物看護学 1」、「応用動物看護学 3」 認定動物看護師教育コアカリキュラム 2019 準拠 「動物看護の教科書 第 3 巻」			
担当教員の実務経験			
菅野多恵:獣医師として、行政、動物病院、動物福祉団体での勤務経験を活かし、動物福祉について多面的に講義する。			

授業科目	国試指定科目	動物形態機能学	担当教員	鈴木 勝
科目英名	Animal Anatomy and Physiology			
開講期間	1 学年 通年 必修 2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 生命のすがた 1)細胞の構造について理解する 2)DNAの働きについて理解する 3)上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する 4)器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する 2. 循環器とその調節 1)心臓の構造について理解する 2)心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する 3)ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する 4)心臓機能の調節機構について理解する 5)血管の種類と構造、機能について理解する 6)血圧調節機構について理解する 3. 呼吸器とその調節 1)呼吸器の構造について理解する 2)換気の仕組みについて理解する 3)肺胞におけるガス交換について理解する 4)血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する 5)呼吸運動の調節機構について理解する 4. 消化器と栄養代謝 1)消化管(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の構造と機能について理解する 2)唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能 について理解する 3)消化と吸収の仕組みについて理解する 4)各種栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の代謝について理解する 5. 内分泌とホルモン 1)内分泌の定義について理解する 2)ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する 3)主な内分泌臓器の構造と機能について理解する 4)主なホルモンの作用と標的器官について理解する 6. 泌尿器と体液調節 1)腎臓及びネフロン構造と機能について理解する 2)クリアランスの意味を知り、腎血 漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する 3)尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する 4)体液の分布と区分、調節機構について理解する 5)電解質バランスについて理解する 6)酸・塩基平衡について理解する 7. 脳と神経 1)ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する 2)脳の構造と機能について理解する				

- 3) 脊髄の構造と機能について理解する
- 4) 体性神経の構成と機能について理解する
- 5) 自律神経の構成と機能について理解する
- 8. 運動器
 - 1) 骨格の構成について理解する
 - 2) 骨の形状と構造について理解する
 - 3) 関節の構造と働きについて理解する
 - 4) 骨格筋の構造と収縮機構について理解する
 - 5) 主な骨格筋の名称と機能について理解する
- 9. 血液と造血器
 - 1) 血球成分と血漿成分について理解する
 - 2) 赤血球の構造と機能について理解する
 - 3) 白血球の構造と機能について理解する
 - 4) 血小板機能と血液凝固機構及び線 維素溶解について理解する
- 10. 皮膚と感覚器
 - 1) 皮膚の構造と機能について理解する
 - 2) 皮膚の付属器官について理解する
 - 3) 体性感覚(皮膚感覚)について理解する
 - 4) 特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚)について理解する

授業概要

動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。

授業科目	国試指定科目	動物形態機能学Ⅰ	担当教員	鈴木 勝
科目英名	Animal Anatomy and Physiology I			
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	
到達目標				
学生が動物の形態と機能を学びながら両者の関係性を理解すること、および動物種差を通して仕事をするうえで何が大切なのかを知ることを目標とする。				
授業概要				
体の各部位ごとにマクロとミクロの視点で名称、機能、関係性、機能の意味(機能しないとどうなるか、どういった疾患になるのか)などを学んでいく。				
授業計画				
1 動物形態機能学とは、学ぶ意味と使い方、位置や方向を示す専門用語など				
2 骨格(機能、構造、動物種差、関連疾患など)				
3 骨格(微細構造、代謝、関連疾患など)				
4 関節と靱帯(構造、種類、形状、関連疾患など)				
5 筋と腱(機能、微細構造、様々な分類、関連疾患など)				
6 体内の物質輸送(種類、関連疾患など)				
7 体を構成する基本物質、細胞の構造と働き、細胞内液、細胞外液、電解質				
8 細胞分裂と遺伝(関連疾患など)				
9 各種組織、器官の成り立ちと維持・調節				
10 血液と造血器(血液成分、赤血球、白血球、リンパ節、関連疾患など)				
11 血液と造血器(血小板と血液凝固機構、関連疾患など)				
12 循環器(各部名称、血液循環、心臓の動き、聴診部位、関連疾患など)				
13 循環器(血管の種類と血圧、関連疾患など)				
14 心電図(聴診と心室の動きとの関係、関連疾患など)				
15 消化器(全体の流れ、主な働きと各部名称、関連疾患など)				
16 消化器(各栄養素の消化・吸収、関連疾患など)				
17 消化器(口腔、歯と歯式、関連疾患など)				
18 消化器(胃、主な働きと調節、関連疾患など)				
19 消化器(小腸、主な働き、関連疾患など)				
20 消化器(大腸、主な働き、関連疾患など)				
21 消化器(肝臓、主な働き、関連疾患など)				
22 消化器(脾臓、主な働き、関連疾患など)				
23 消化器(炭水化物の消化・吸収・代謝、関連疾患など)				
24 消化器(解糖、関連疾患など)				
25 消化器(タンパク質の消化・吸収・代謝、関連疾患など)				
26 消化器(尿素回路、関連疾患など)				
27 消化器(脂肪の消化・吸収・代謝、関連疾患など)				
28 消化器(脂肪の消化・吸収・代謝、関連疾患など)				
29 消化器(ビタミンとミネラルの消化・吸収・代謝)				
30 消化器(ビタミンとミネラル、その関連疾患など)				
履修上の注意				
欠席した授業のプリントを入手するよう、努力すること。				

成績評価
前期、後期各 1 回の小テスト(合計 33%)、および前期と後期の期末試験(合計 66%)で評価(すべての問題は五肢択一式問題)
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの
愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻『動物形態機能学 動物繁殖学』 ノート、ハサミ、のり、筆記用具を毎回持参
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)
授業後には、授業で指摘した大事なポイントを必ず復習すること。
担当教員の実務経験

授業科目	国試指定科目	動物形態機能学Ⅱ(生理学)	担当教員	鈴木 勝
科目英名	Animal Anatomy and PhysiologyⅡ			
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
学生が動物の形態と機能を学びながら両者の関係性を理解すること、および動物種差を通して仕事をするうえで何が大切なのかを知ることを目標とする。				
授業概要				
体の各部位ごとにマクロとミクロの視点で名称、機能、関係性、機能の意味(機能しないとどうなるか、どういった疾患になるのか)などを学んでいく。				
授業計画				
1 生体の防御機構(外皮、毛、爪、体温調節など) 1				
2 生体の防御機構(外皮、毛、爪、体温調節など) 2				
3 生体の防御機構(外皮、毛、爪、体温調節など) 3				
4 生体の防御機構(外皮、毛、爪、体温調節など) 4				
5 脳と神経(構成細胞)				
6 脳と神経(静止膜電位と活動電位)				
7 脳と神経(興奮の伝達とシナプス伝達)				
8 脳と神経(シナプス)				
9 脳と神経(興奮性と抑制性シナプス)				
10 脳と神経(神経伝達物質と受容体)				
11 脳と神経(神経回路)				
12 脳と神経(神経系)				
13 脳と神経(脳の構造)				
14 脳と神経(脳神経)				
15 脳と神経(脊髄と脊髄神経)				
16 脳と神経(自律神経系)				
17 脳と神経(行動の神経調節)				
18 感覚と情報伝達(受容器と閾値、体性感覚)				
19 感覚と情報伝達(嗅覚、味覚)				
20 感覚と情報伝達(聴覚と平衡感覚、視覚)				
履修上の注意				
欠席した授業のプリントを入手するよう、努力すること。				
成績評価				
2回行う小テスト(各 20%)および後期期末試験(60%)で評価(すべての問題は五肢択一式問題)				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
『基礎動物看護学 1 動物形態機能学 動物繁殖学(インターズー)』				
ノート、ハサミ、のり、筆記用具を毎回持参				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
授業後には、授業で指摘した大事なポイントを必ず復習すること。				
担当教員の実務経験				

授業科目	国試指定科目	動物行動学	担当教員	菅 直子
科目英名	Animal Behavior			嶋田 三那子
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門基礎科目 ／ 講義	
到達目標				
1. 動物行動学の基礎				
1)動物行動学の4つの問い(適応・進化・機構・発達)について理解する				
2)行動の進化と適応、家畜化について理解する				
3)生得的行動と学習行動について理解する				
4)脳による行動制御について理解する				
2. 個体維持行動				
1)摂食及び飲水行動について理解する				
2)排泄行動について理解する				
3)身づくろい行動について理解する				
4)護身行動について理解する				
3. 発達過程と社会行動				
1)発達ステージ(新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)と各時期の行動学的特徴について理解する				
2)生殖行動(性行動・母性行動)について理解する				
3)コミュニケーション行動について理解する				
4)敵対行動と親和的行動について理解する				
4. 学習理論				
1)行動形成について理解する				
2)馴化と感作について理解する				
3)古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する				
4)学習に影響を与える因子について理解する				
5)基本的なトレーニング法(トイレトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)について理解する				
5. 問題行動				
1)問題行動の定義と要因(遺伝的要因、生得的要因、環境要因)について理解する				
2)攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法について理解する				
3)恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する				
4)不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法について理解する				
5)高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する				
6. 行動治療				
1)行動診療の進め方について理解する				
2)行動修正法と環境修正法の種類と 適応について理解する				
3)行動治療における薬物療法について理解する				
授業概要				
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。				

授業科目	国試指定科目	動物行動学	担当教員	菅 直子
科目英名	Animal Behavior			嶋田 三那子
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	
到達目標				
犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する				
授業概要				
動物行動学の基礎理論に沿い、種の行動様式の特徴を解説する。 その後、行動発達、学習理論、トレーニング技法について解説する。				
授業計画				
1 動物行動学の基礎①動物行動学の成り立ちと発展 2 動物行動学の基礎②行動の進化、適応、家畜化 3 動物行動学の基礎③行動発現(動機づけ、神経伝達物質) 4 行動の周期性 5 行動に影響する生理物質(脳による行動制御、神経伝達物質) 6 社会行動、親和的行動、敵対的行動 7 生殖行動(性行動・母性行動) 8 維持行動(摂食行動、排泄行動、身づくろい行動) 9 発達ステージ 10 行動変容と学習理論①古典的条件付け 11 行動変容と学習理論②オペラント条件付け、消去 12 行動変容と学習理論③馴化、般化、感作、脱感作、弁別 13 犬の問題行動の種類、予防、行動治療法 14 猫の問題行動の種類、予防、行動治療法 15 アニマルウェルフェアの行動学的評価(転移行動、常同行動)				
履修上の注意				
内容が次回に続くことがあるため、配布資料は毎回持参すること。				
成績評価				
期末試験 100%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの 前回までに配布したプリント その他は適宜指示します。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用) 特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	国試指定科目	動物栄養学	担当教員	坂根 弘
科目英名	Animal Nutrition			
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 基礎栄養 1) 5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)について理解する 2) 栄養要求の種差(必須アミノ酸、必須脂肪酸など)について理解する 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する 4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する 5) 栄養素の不足、過剰症について理解する 2. 栄養要求量 1) エネルギー要求量(RER、MER など)の意味と計算法について理解する 2) 栄養基準(AAFCO、NRC など)について理解する 3) ライフステージ(成長期、維持期、妊娠期、授乳期、老齢期)ごとの栄養管理について理解する 3. フードと栄養指導 1) ペットフードの種類、分類について理解する 2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる 3) 中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる 4) 栄養状態の評価法(BCS、体脂肪測定など)について理解する 5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する 4. 疾患と栄養 1) さまざまな疾患時の食事療法について理解する 2) 療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる 5. 強制給餌と経管・静脈栄養法 1) 強制給餌の方法と注意点について理解する 2) 経管栄養法の種類(経鼻、食道、胃瘻チューブなど)と特徴、方法について理解する 3) 静脈栄養法の種類(TPN、PPN)と特徴、方法について理解する 4) チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する				
授業概要				
5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。				

授業科目	国試指定科目 動物栄養学Ⅰ(基礎)	担当教員	坂根 弘
科目英名	Animal Nutrition I (Basic)		
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
基礎栄養学においてエネルギー、5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)ならびに水分の要求量、種差(必須アミノ酸、必須脂肪酸など)について学び、栄養素の過不足がもたらす悪影響について理解し、飼主に説明できるようになる。基礎栄養学を習得した後は市販ペットフードについてその種類、フォーミュラの違いならびに栄養指導方法を理解し、市販フードを用いた食事管理が飼主に説明できるようになる。 臨床栄養学ではさまざまな疾患時の食事療法について理解し、療法食を用いた食事管理について飼主に説明できるようになる。さらに食欲廃絶時の動物に対する栄養補給方法を理解し、飼主に説明できるようになる。			
授業概要			
5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの食餌管理の違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。			
授業計画			
1 基礎栄養Ⅰ(5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)) 2 基礎栄養Ⅱ(栄養要求の種差(必須アミノ酸、必須脂肪酸など)) 3 基礎栄養Ⅲ(食性、嗜好、嗜好性、摂食行動) 4 基礎栄養Ⅳ(①健康維持における栄養の持つ意味・②栄養素の不足、過剰症) 5 栄養要求量Ⅰ(エネルギー要求量(RER、MER など)の意味と計算法) 6 栄養要求量Ⅱ(栄養基準(AAFCO、NRC など)) 7 栄養要求量Ⅲ(ライフステージ(成長期、維持期、妊娠期、授乳期、高齢期)ごとの栄養管理) 8 フードと栄養指導Ⅰ(①ペットフードの種類、分類・②ペットフードのラベル表示・③中毒、与えてはいけないもの) 9 フードと栄養指導Ⅱ(栄養状態の評価法(BCS、体脂肪測定など)) 10 フードと栄養指導Ⅲ(肥満の弊害と減量プログラムの作成法) 11 疾患と栄養Ⅰ(さまざまな疾患時の食事療法) 12 疾患と栄養Ⅱ(療法食の特徴や効果) 13 強制給餌と経管・静脈栄養法Ⅰ(強制給餌の方法と注意点) 14 強制給餌と経管・静脈栄養法Ⅱ (① 経管栄養法の種類(経鼻、食道、胃瘻チューブなど)と特徴、方法・②静脈栄養法の種類(TPN、PPN)と特徴、方法) 15 強制給餌と経管・静脈栄養法Ⅲ(チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点)			
履修上の注意			
試験は定期試験時に筆記試験で行う。学生へのフィードバックは直接的には、試験結果の報告によって行う。 所定の成績に到達不可の場合は再試験(レポート方式)で理解不足の再勉強を求める。 本講義だけでも十分理解はできる水準であるが、事前・事後に教科書をよく読み、内容を確認すること。			
成績評価			
試験(70%)、授業参加度(30%)を基に総合的評価をする。オンライン授業が混じる場合には、教場試験に小テストによる出欠、その成績などを加味して割合を決め、評価する。			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
「臨床動物看護学2 動物臨床栄養学、動物臨床検査学」(日本動物保健看護系大学協会 カリキュラム委員会編)			
参考書:「ベーシック 小動物栄養学」 阿部又信・大島誠之助著 ファームプレス(2019) 978-4-86382-105-7			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
担当教員の実務経験			

授業科目	国試指定科目	動物看護学概論	担当教員	小野 貴子
科目英名	Introduction to Veterinary Nursing			
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 動物看護の基本となる概念 1)動物看護の目的、概念について理解する 2)獣医療と動物看護の歴史について理解する 3)獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する 4)動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する 5)動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する 2. 動物看護の提供体制 1)社会における動物病院の役割について理解する 2)一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する 3)インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する 4)診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する 5)職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する 3. 愛玩動物看護師の社会的立場 1)愛玩動物看護師の職能団体について理解する 2)愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する 3)愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する 4)国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する				
授業概要				
獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。				
授業計画				
1 授業ガイダンス 2 動物看護の目的、概念 3 動物医療と動物看護の歴史 4 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領 5 動物看護の対象、健康、福祉、QOL 6 愛玩動物看護師の役わり 7 動物病院の役わり 8 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携 9 インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務 10 診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務 11 労働安全衛生、危険の防止・対処法 12 職能団体について 13 資格制度と業務範囲、資格認定機関 14 代表的な組織・団体について 15 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い				

履修上の注意
授業内で提出課題があるため、欠席などで抜けることのないよう注意する。 授業計画の内容と順番は前後する場合がある。
成績評価
授業内課題 50%、授業参加度 50%により総合的に評価する。
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの
指定なし。適宜資料を配布する。
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)
授業内課題の提出。 『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4巻 動物看護学概論／人と動物の関係学／生命倫理・動物福祉』 他、授業内で紹介する。
担当教員の実務経験
動物病院での実務経験を活かし、動物看護師に求められる知識だけでなく、心構えについても講義する。

授業科目	国試指定科目	動物病理学	担当教員	小山 美弥
科目英名	Veterinary Pathology			
開講期間	2 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	
到達目標				
1. 動物病理学の基礎				
1) 病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する				
2) 病理組織標本の作製法について理解する				
3) 病理組織学的検査の実施手順について理解する				
2. 細胞や組織に生じる変化				
1) 変性と物質沈着について理解する				
2) 壊死とアポトーシスについて理解する				
3) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する				
4) 過形成と肥大について理解する				
5) 低形成と萎縮について理解する				
3. 循環障害				
1) 充血とうっ血について理解する				
2) 出血の原因と病態について理解する				
3) 血栓の成因について理解する				
4) 虚血と梗塞について理解する				
5) 浮腫と水腫について理解する				
6) ショックの原因と分類、病態について理解する				
7) 播種性血管内凝固 (DIC) の病態について理解する				
4. 炎症				
1) 炎症の定義と5大主徴について理解する				
2) 炎症の分類と原因と特徴について理解する				
3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する				
4) 炎症の経過と治癒について理解する				
5. 腫瘍				
1) 腫瘍の定義と分類について理解する				
2) 腫瘍の原因と発生機序について理解する				
3) 腫瘍と宿主の関係について理解する				
4) 腫瘍の転移と進行について理解する				
6. 先天異常				
1) 遺伝子・染色体異常について理解する				
2) 発生異常と奇形について理解する				
授業概要				
様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。				

授業科目	国試指定科目	動物病理学	担当教員	小山 美弥
科目英名	Animal Pathology			
開講期間	2 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
動物が疾病に罹患した時の臓器・組織・細胞の病変部を肉眼的・顕微鏡的に把握して看護に生かす。				
授業概要				
パワーポイントを使用。病変部の写真を多く見る。				
授業計画				
1 病理学の領域				
2 退行性病変				
3 進行性病変				
4 循環障害				
5 炎症①				
6 炎症②				
7 腫瘍①				
8 腫瘍②				
9 奇形・病因論				
10 病理学各論(循環器疾患)				
11 病理学各論(呼吸器疾患)				
12 病理学各論(消化器疾患)				
13 病理学各論(泌尿生殖器疾患)				
14 病理学各論(内分泌器疾患)				
15 病理学各論(脳神経系・血液系・感覚器系疾患)				
履修上の注意				
寝ている学生は欠席とみなす				
成績評価				
講義の小テストおよび定期試験の成績によって評価する				
教科書(授業必携本) / 毎回持参するもの				
『基礎動物看護学2 動物病理学 動物薬理学』				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
復習は必須				
担当教員の実務経験				
獣医師。動物病院(アニマルメディカルセンター)にて診療に携わる				

授業科目	国試指定科目	動物薬理学	担当教員	竹村 富美代
科目英名	Veterinary Pharmacology			
開講期間	2 学年 前期 必修 3 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 動物薬理学の基礎				
1) 獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する				
2) 薬理作用とその発現機構について理解する				
3) 薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性について理解する				
4) 薬物間相互作用について理解する				
5) 副作用と中毒について理解する				
2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い				
1) 獣医師による投薬量計算について理解する				
2) 各種投薬法(投与経路)を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる				
3) 薬物の適切な管理方法について理解する				
3. 神経系に作用する薬物				
1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する				
2) 鎮痛薬について理解する				
3) 運動神経系に作用する薬について理解する				
4) 鎮静薬と抗けいれん薬について理解する				
5) 問題行動の治療に用いられる薬について理解する				
4. 呼吸器系に作用する薬物				
1) 呼吸興奮薬について理解する				
2) 鎮咳薬について理解する				
3) 気管支拡張薬について理解する				
5. 循環器・泌尿器に作用する薬物				
1) 血管拡張薬(降圧薬)について理解する				
2) 心不全治療薬(強心薬)について理解する				
3) 抗不整脈薬について理解する				
4) 利尿薬について理解する				
6. 消化器に作用する薬物				
1) 制吐薬について理解する				
2) 制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する				
3) 消化管運動調節薬について理解する				
4) 止瀉薬について理解する				
5) 瀉下薬について理解する				
6) 肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する				
7) 膵酵素製剤について理解する				
7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物				
1) 代表的なオータコイドについて理解する				
2) 糖尿病治療薬について理解する				
3) 甲状腺ホルモン製剤について理解する				
4) ステロイドホルモン製剤について理解する				

38

8. 血液・免疫系に作用する薬物

- 1) 抗貧血薬について理解する
- 2) 血液凝固抑制薬について理解する
- 3) 血液凝固促進薬(止血薬)について理解する
- 4) 非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)について理解する
- 5) 免疫抑制薬について理解する

9. 感染症の治療、予防に用いられる薬物

- 1) 抗菌薬について理解する(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)
- 2) 抗真菌薬について理解する
- 3) 駆虫薬について理解する
- 4) 殺虫薬について理解する
- 5) 消毒薬について理解する

10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物

- 1) 抗悪性腫瘍薬について理解する(作用機序による分類)

授業概要

代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。

授業科目	国試指定科目 動物薬理学Ⅰ(基礎)	担当教員	竹村 富美代
科目英名	Veterinary Pharmacology I (Basic)		
開講期間	2 学年 前期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
動物医療における薬物治療について、動物看護師として必要な医薬品の薬理作用や体内動態、副作用、取り扱いを理解し、各疾患領域における治療薬の知識を習得し、説明ができる。			
授業概要			
代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。			
授業計画			
1 薬理学概論/医薬品の基準と分類 2 医薬品の開発 3 薬と薬理作用 4 薬理作用の発現機構 5 薬の剤形と投与方法 6 生体内での薬の動態 7 薬効に影響を与える因子 8 薬の有害作用 9 消化器に作用する薬Ⅰ 10 消化器に作用する薬Ⅱ 11 消化器に作用する薬Ⅲ 12 免疫系に作用する薬 13 化学療法薬Ⅰ 14 化学療法薬Ⅱ 15 化学療法薬Ⅲ			
履修上の注意			
特になし			
成績評価			
授業参加度:30%、筆記試験70%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
認定動物看護師コアカリキュラム準拠『基礎動物看護学2 動物病理学 動物薬理学』			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
講義後は各回の内容を復習すること。			
担当教員の実務経験			
大学や医学研究所において、疾患モデルの作成や臓器移植に伴う症状についての研究を行う。また複数の外資系製薬会社で研究開発の実績を持つ。			

授業科目	国試指定科目	動物感染症学	担当教員	小野 貴子
科目英名	Veterinary Infectious Diseases			池田 純子
開講期間	1 学年 後期 必修 2 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 微生物の分類と特徴 1)細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2)ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 3)真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2. 微生物検査 1)検体採取と取扱いについて理解する 2)無菌環境下での必要な手技について理解する 3)微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する 4)微生物培養法について理解する 5)抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法 (PCR検査含む。)について理解する 6)薬剤感受性試験について理解する 3. 寄生虫の分類と特徴 1)原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2)蠕虫(吸虫、条虫、線虫)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3)衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4)寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5)駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する 4. 動物感染症 1)病原体の感染経路と伝播様式について理解する 2)感染症の成立要因について理解する 3)主な感染症(動物臨床看護学各論の3.代表的な疾患を参照)の症状、治療法、予防法について理解する 4)消毒、滅菌法について理解する 5)院内感染の予防対策について理解する 5. 免疫学の基礎と応用 1)免疫担当細胞とその役割について理解する 2)自然免疫と獲得免疫について理解する 3)液性免疫と細胞性免疫について理解する 4)アレルギー(Ⅰ～Ⅴ型)と自己免疫疾患について理解する 5)ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する				
授業概要				
微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。				

授業科目	国試指定科目 動物感染症学Ⅰ(免疫学)	担当教員	小野 貴子
科目英名	Veterinary Infectious Diseases I (Immunology)		
開講期間	1 学年 後期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
感染症への対応策、がんや自己免疫疾患、加齢に伴う免疫能低下など、様々な病気の予防策や治療法と深いかわりのある免疫機構を理解することを目標とする。			
授業概要			
動物医療水準が高度化し、疾病構造が大きく変化した現在、免疫学の必要性が高まっている。そこで、免疫の基本的な仕組みに入る前に、前提となる血液についての講義を行ってから、免疫の基本的な仕組みを講義する。その後、動物看護師のみならず動物関連の職業に就いた際に遭遇することの多い、免疫がかかわる疾患やワクチンについて講義する。			
授業計画			
1 イントロダクション 2 免疫のための血液学 1(血液の働き、白血球について) 3 免疫のための血液学 2(赤血球、血小板について) 4 免疫とは 5 免疫のしくみ1(免疫の全体像) 6 免疫のしくみ2(自然免疫と補体) 7 免疫のしくみ3(獲得免疫) 8 免疫のしくみ 総復習 9 免疫の低下による病気1(免疫不全) 10 免疫の低下による病気 2(がん) 11 免疫の異常反応1(アレルギー) 12 免疫の異常反応2(自己免疫疾患) 13 輸血、移植免疫 14 免疫と医療(ワクチン) 15 免疫学の疑問を解決！			
履修上の注意			
毎回、確認テストを行います。また、15 回目の授業では、毎回の確認テストで間違えの多かったものや記述してもらった疑問点に焦点を当てて講義を行いますので、まずは自分自身が理解できていないことはないかどうか明確にしてください			
成績評価			
期末試験 100%			
教科書(授業必携本) / 毎回持参するもの			
プリントを配布			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
講義後は必ず各回の内容を復習し、次回の授業までに理解しておくか、疑問点を明確にして質問するなど、講義内容の習得に努力すること。参考図書については、第 1 回の講義で紹介します。			
担当教員の実務経験			
動物病院での実務経験を活かし、動物看護師に求められる知識だけでなく、心構えについても講義する。			

授業科目	国試指定科目 動物感染症学Ⅱ(微生物学)	担当教員	池田 純子
科目英名	Veterinary Infectious DiseasesⅡ(Microbiology)		
開講期間	2 学年 前期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
動物やヒトの日常の環境に存在する多種多様な微生物の存在を知り、その特性や増殖条件を理解し、動物看護の現場で必要な感染予防、治療の知識を身につける。			
授業概要			
生物界で、微生物と呼ばれるものの種類、存在意義、特に動物やヒトの生命活動に関わる微生物(常在菌・病原菌微生物)の性質や発育増殖の様式を学ぶ。			
授業計画			
1 微生物学と動物看護 (何を学ぶか、何故それが必要か) 2 微生物とは (扱う微生物の分類) 3 微生物の居場所① (日常環境での存在) 4 微生物の居場所② (動物体と共生) 5 細菌について① 6 細菌について② 7 細菌について③ 8 ウイルスについて① 9 ウイルスについて② 10 ウイルスについて③ 11 真菌について① 12 真菌について② 13 原虫類について① 14 蠕虫類について① 15 補・場合により小テスト			
履修上の注意			
ノート提出をしてもらうので、欠席やノートがとれなかった場合は、必ず後日補うこと。			
成績評価			
期末試験(場合により最終授業の際の小テスト) 60% 提出ノート 40%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
『基礎動物看護学3 動物感染症学(インターズー)』、自分のノート(ルーズリーフ可)			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
ズーノーシスハンドブック(メディカルサイエンス社) 授業ノートは必ず見かえし、不明、不足がないか確認し、次回に質問してください。			
担当教員の実務経験			

授業科目	国試指定科目	公衆衛生学	担当教員	竹村 富美代
科目英名	Public Health			
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 公衆衛生の概要 1) 公衆衛生の目的について理解する 2) 公衆衛生行政について理解する 3) 国民衛生の動向について理解する 4) One Health と獣医療の関係について理解する 2. 疫学と疾病予防 1) 感染の成立について理解する 2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する 3) 疫学調査法について理解する 4) 予防疫学について理解する 5) 人獣共通感染症とその対策について理解する 6) 狂犬病予防について理解する 3. 環境衛生 1) 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する 2) 化学物質によってもたらされる健康障害について理解する 3) 放射線による汚染と障害について理解する 4) 衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する 5) 動物の咬傷による人への健康障害について理解する 6) 廃棄物の取扱いについて理解する 4. 食品衛生 1) 食品衛生と食中毒について理解する 2) 動物性食品の衛生について理解する 3) 食品衛生管理手法 (HACCP など) について理解する				
授業概要				
環境及び食品 衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。				

授業科目	国試指定科目 公衆衛生学Ⅰ	担当教員	竹村 富美代
科目英名	Public HealthⅠ		
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義
到達目標			
ヒトと動物と環境は One world, one health という考えのもと、動物看護師として人間と深く関わる動物獣医師医療の予防疫学や保健衛生の普及向上に必要な公衆衛生に関する知識を習得する。			
授業概要			
環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。			
授業計画			
1 動物看護師と公衆衛生Ⅰ（公衆衛生の目的、公衆衛生行政） 2 動物看護師と公衆衛生Ⅱ（国民衛生の動向、動物看護師と公衆衛生） 3 疫学と疾病予防Ⅰ（発生要因と指標） 4 疫学と疾病予防Ⅱ（疫学研究方法、感染と流行） 5 疫学と疾病予防Ⅲ（感染症対策、非感染症の疫学） 6 疫学と疾病予防Ⅳ（サーベイランス） 7 食品衛生Ⅰ（食品衛生法） 8 食品衛生Ⅱ（食中毒） 9 食品衛生Ⅲ（食品とアレルギー、食品の保存方法） 10 食品衛生Ⅳ（食品安全行政の動向、食品由来の健康危害防止） 11 環境衛生Ⅰ（環境衛生とは、地球規模の環境問題） 12 環境衛生Ⅱ（水の衛生） 13 環境衛生Ⅲ（生活環境問題） 14 環境衛生Ⅳ（廃棄物問題） 15 環境衛生Ⅴ（衛生動物）			
履修上の注意			
特になし。			
成績評価			
授業参加度：30%、筆記試験70%			
教科書（授業必携本）／ 毎回持参するもの			
認定動物看護師コアカリキュラム準拠 『基礎動物看護学2 公衆衛生学 動物医療関連法規』			
事前・事後学修（予習・復習）の内容 ／ 参考書（自主的な学習用）			
教科書は一度通読すること。講義後は各回の内容を復習すること。			
担当教員の実務経験			
大学や医科学研究所において、疾患モデルの作成や臓器移植に伴う症状についての研究を行う。また複数の外資系製薬会社開発部門で疾患の疫学調査研究の実績を持つ。			

授業科目	国試指定科目	動物内科看護学	担当教員	橋本 直子/藤波 由香/浴本 涼子
科目英名	Veterinary Medical Nursing			竹尾 恵/梅田 麻実/菅尾 玲奈
開講期間	1 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義
到達目標				
1. 健康の保持・増進				
1)健康診断の内容と目的について理解する				
2. 診療補助に必要な技術				
1)診察における愛玩動物看護師の役割について理解する				
2)診察室の準備と衛生管理について理解する				
3)動物種ごとの適切な接し方について理解する				
4)保定の基本的な原理、目的、方法について理解する				
5)身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、浅在リンパ節など）について理解する				
3. 検査・処置に必要な技術				
1)注射器の取扱い及び管理方法について理解する				
2)採血の目的と方法について理解する				
3)採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する				
4)穿刺と吸引について理解する				
5)各種カテーテル挿入について理解する				
6)酸素吸入について理解する				
7)マイクロチップの挿入について理解する				
4. 投薬に関わる技術				
1)薬の処方について理解する				
2)内服薬の使用法について理解する				
3)薬剤の注射法について理解する				
4)外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する				
5)投薬前後の注意事項について理解する				
5. 輸液に関わる技術				
1)輸液の適応とリスクについて理解する				
2)輸液計画について理解する				
3)各種輸液剤の特性や適応について理解する				
4)輸液中のモニタリングについて理解する				
6. 輸血に関わる技術				
1)輸血の適応とリスクについて理解する				
2)輸血計画について理解する				
3)クロスマッチ試験と血液型について理解する				
4)各種輸血製剤の適応や特性について理解する				
5)輸血に関わる手技について理解する				
6)輸血による副反応について理解する				
7. 心電図と血圧に関わる技術				
1)心電図検査の目的と意義について理解する				
2)心電図検査の実施方法について理解する				

46

3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する

8. X線検査と CT/MRI に関わる技術

1) X線検査の目的と意義について理解する

2) 放射線防護について理解する

3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する

4) 造影検査と透視検査について理解する

5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する

6) CT 及び MRI の概要について理解する

9. 超音波検査に関わる技術

1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する

2) Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する

10. 内視鏡検査に関わる技術

1) 内視鏡検査の目的と意義について理解する

2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する

3) スコープの洗浄・消毒法について理解する

11. 神経学的検査に関わる技術

1) 姿勢反応と脊髄反射について理解する

2) 脳神経の検査法について理解する

3) 神経学的検査の評価記録法について理解する

12. 眼科検査に関わる技術

1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する

2) 眼圧測定の方法と意義について理解する

3) 眼底検査の方法と意義について理解する

13. 皮膚と耳の検査に関わる技術

1) 皮膚病変の観察と記録法について理解する

2) 皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する

3) ウッド灯検査と真菌培養法について理解する

4) 外耳道の検査方法と意義について 理解する

授業概要

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

愛玩動物看護学科のカリキュラムについて

ヤマザキ動物専門学校愛玩動物看護学科のカリキュラムは、本学建学の精神である「生命への畏敬」と「職業人としての自立」、および教育理念「生命(いのち)を生きる」に則って構築されています。

授業科目は、幅広い教養および専門教育を受けるうえで必要となる基本的な知識を修得する「教養教育科目」、専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得する「専門教育科目」が設置されており、専門教育科目は、その中でも専門基礎科目と専門科目に分類されています。

動物看護、動物美容、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外の動物診療施設での実習で実践力を身につけ、動物看護師に必要とされる専門性を高め、即戦力となる技術を修得し、動物の専門家として人と動物に愛情を持って接し、生涯にわたって飼主をサポートできる人材の育成を目指しています。

I 授業と履修

1. 授業科目の構成

本校の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

- (1) 必修科目：全員が履修する科目です。配当年次、学期ごとに履修します。
- (2) 選択科目：設定された科目の中から選択して履修する科目です。

2. 授業科目の区分

本校の授業科目の区分は、授業の内容によって以下のように区分されます。

- (1) 教養教育科目
学術の基礎を広く深く学ぶことを目的としています。
- (2) 専門教育科目
専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得することを目的としています。
 - ① 専門基礎科目
動物看護学の基礎を中心に必要な知識を養う科目です。
 - ② 専門教育科目
動物看護、動物美容、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外の動物診療施設での実習で実践力を身につけ、動物看護師に必要とされる専門性を高め、即戦力となる技術を修得する科目です。

3. 授業形式の区分と単位数換算

授業形式は、講義、実習に区分しています。

1時間を45分とし、講義は2時間(90分)を基本単位、実習は4時間(180分)を基本単位として授業を行います。

本校は文部科学省令の専修学校設置基準に基づいています。授業時数を単位数に換算する場合においては学則第9条により、講義にあつては15時間を1単位、実習にあつては30時間をもって1単位としています。

6. 進路変更

進路変更等のある場合には、クラスアドバイザーを通じて事前に校長の許可を得るようにしてください。

7. 休 講

次のように措置します。

- (1) 休講の場合は、掲示またはメールにて連絡します。
- (2) 事前の掲示がなく、当該授業開始時刻から 30 分を経過しても担当教員が見えないときは事務の指示に従ってください。
- (3) やむを得ない事由により休校とするときは、掲示板・ホームページ等に掲載します。

休講が発生した場合は、原則として振替授業を実施します。詳細は掲示します。

8. 事務連絡と事務取扱時間

事務からの連絡・指示は、所定の掲示板に掲示します。

事務取扱時間(月～土)：9 時 00 分～17 時 00 分

- (6) 試験開始後 30 分を過ぎてからの入場は認めません。
- (7) 不正を行った場合、または行ったと認められた場合、あるいは監督者の指示に従わなかった場合は、直ちに退場が命じられ、その試験期間中の全受験科目が無効となります。

4. 試験結果の発表と成績評価

(1) 試験結果の発表

- ① 前期および後期の定期試験の不合格者に対しては結果発表後、「追再試験受験届」を事務受付で配付します。
- ② 成績は成績通知書にて本人にお知らせすると共に保証人に郵送します。

(2) 成績評価と GPA 制度

- ① 成績評価、判定および GP (Grade Point) は次のとおりです。

評 定	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点以下
評 価	S	A	B	C	D
判 定	合 格				不合格
G P	4	3	2	1	0

履修科目の成績は、試験、追試験または再試験の成績、授業への参加度、平常の学習状況等で総合評価されます。なお、再試験の成績評価は C 評価となります。成績 D 評価は不合格です。

② GPA

GPA とは、自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるために学業成績を総合的に判断する指標として評定平均値 (Grade Point Average。以下「GPA」という。) を用いる制度です。

③ GPA の計算方法

$$\frac{S \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数}}$$

履修登録単位数

GPA の算出は全ての科目が対象となりますので、出席不良や成績不良による不合格科目が多いと、ポイントが低くなります。通年科目は後期に含めます。

(3) GPA による履修指導

ひとつの学期における GPA が 1.0 未満であった場合は、クラスアドバイザーおよびアシスタントアドバイザーによる指導を行います。1.0 未満の学期が 2 回以上連続した場合は、クラスアドバイザーと本人および保証人と面談を実施します。

(4) 再試験を欠席した場合について

欠席者に対する再度の再試験は行いません。

4. 学期と時間割

- (1) 本校の学期は、学則第6条に基づき、前期と後期の2期制としています。
- (2) 本校の講義科目は2時限（90分）単位、実習授業は4時限（180分）単位の授業を行いますので、1日の授業時間は下表のとおりです。

1. 2 時限	9:10～10:40
3. 4 時限	10:50～12:20
5. 6 時限	13:10～14:40
7. 8 時限	14:50～16:20

5. 欠席届

次の(1)～(5)の事由が生じた場合、所定の欠席届と必要に応じて事由発生を証明する書類等（コピー可）を、欠席した授業の次週の授業時まで、事務受付に直接提出してください。

また、実習を遅刻、欠席する場合は担当教員の指示に従ってください。

- (1) 感染性疾患（インフルエンザ等）による欠席

医師による出席許可後、診断書または治癒証明書等の（期間を明示した）証明書類

- (2) ご家族（一親等、二親等、三親等）の忌引による欠席

「忌引届」と「法事等があった事を証明する書類のコピー（会葬礼状等）」

※ なお、忌引きによる欠席については、次のとおり出席扱いとします。

- ① 父母（養継父母）、配偶者、子（養子を含む）：5日間
- ② 祖父母・曾祖父母、兄弟、配偶者の父母：3日間

- (3) 公的災害・事故等による欠席

公的機関の証明書を添付した欠席届を提出してください。

- (4) その他、研修（海外）や就職活動による欠席

研修先、就職活動先への参加を証明する書類を添付した欠席届を提出してください。

- (5) 裁判員候補者として従事することによる欠席

裁判所からの呼出状を添付した欠席届を提出してください。

感染症疾患、忌引きを除き、上記の欠席届が提出されても、必ずしも欠席を出席とするものではありませんが、科目によっては評価に配慮される場合があります。

Ⅱ 試験と評価

1. 試験の種類

(1) 定期試験

前期および後期の指定された期間内に行われる試験をいいます。ただし、事情により、または科目により実施時期が変更される場合もあります。

(2) 追試験

定期試験を受けられなかった者で、やむを得ない事由を証明する書類を添付し、許可された者に対して行われる試験をいいます。

(3) 再試験

定期試験の成績が不合格となった者に対して行われる試験をいいます。

2. 受験手続

上記各試験のうち、定期試験以外は事務局での手続が必要です。追試験・再試験共通の「再・追試験受験届」に記入してください。なお、追試験と再試験は同時に行われますので、追試験を受ける者は再試験を受けることができません。

(1) 追試験

必要事項を記入し、定期試験を受けられなかったやむを得ない事由を証明する書類を添えて事務受付に願い出てください。

(2) 再試験

必要事項を記入し、再試験手数料 1 科目につき 1,000 円を添えて事務受付に願い出てください。

3. 受験注意事項

(1) 授業料等、学費の未納者は受験できません。

(2) 身分証明書を持参しない者は受験できません。試験当日学生証を忘れた者は試験開始までに必ず事務受付で「仮身分証明書」の発行を受け、試験場でこれを机の上に提示してください。

(3) 試験場には受験者の着席場所が掲示されますので、各自必ず指定された場所に着席し、机の上に身分証明書あるいは「仮身分証明書」を提示してください。また、追試験および再試験の場合は、この他に「追再試験受験許可証」を提示してください。

(4) 試験場においては、特に指定のない限り、教科書、参考書、ノート、メモ等を身の回りに置かないでください。

(5) 問題・答案用紙配付後の棄権は認めません。したがって、受験者は必ず答案用紙を提出しなければなりません。

Ⅲ 学籍（休学・退学等）

1. 休学

(1) 休学の手続

病気その他やむを得ない事由によって、7 日以上学業を継続することができない場合は、保証人（保護者）連署の上、休学を願い出ることができます。休学を希望する場合は、クラスアドバイザーに相談の上、「休学願」に事由を記入し、校長に願い出て、承認を得なければなりません。病気による場合は、医師の診断書を添付しなければなりません。

(2) 休学期間

休学の期間は、1 年を超えることはできません。ただし、特別の事由があると認められたときは、引き続きさらに 1 年延長することができます。

(3) 学費

休学を許可され、または命ぜられた者の授業料・実習費は免除しますが、在籍料は納入してください。

2. 復学

休学期間が満了したとき、または休学期間中でも休学の事由が解消したときは、クラスアドバイザーと相談の上、「復学願」に事由を記入し、保証人（保護者）連署の上、校長に願い出て、承認を得なければなりません。病気で休学したときは、「復学して差し支えない」という医師の診断書が必要です。

3. 退学

(1) 退学願

退学しようとする者は、学年主任と面談の後、「退学願」に事由を記入し、保証人（保護者）連署の上、校長に願い出て、承認を得なければなりません。

(2) 学費

当該学期の学費を納入していない者は、退学願を提出しても受理されません。

4. クラスアドバイザー制度

専任教員がクラスアドバイザーとして各クラスを担当し、学年主任、アシスタントアドバイザーが連携して、学生からの学校生活全般についての相談にきめ細かく応じます。

Ⅳ 進級・卒業

1. 進級、卒業

本校の進級及び卒業は、所定の修業年限を通じ、所定の時間数を修了し、出席日数と学習成績等の総合判定に基づいて決定します。

(1) 進級

教育課程の定めるところにより、校長が学年ごとに修了すべき学科目について、試験を行い、期末試験の評価、提出物、学習態度等の総合評価に基づいて進級を決定します。

ただし、必修授業の出席率 70%以上、各学年において履修すべき授業科目の中でも専門教育科目を修得していること、および期日までの学費の完納を原則とします。

(2) 卒業

卒業は各学年の修了認定、必修授業の出席率 70%以上、期末試験の評価、提出物、および学習態度の総合評価に基づいて決定されます。本校を卒業した者には卒業証書が授与され、専門士（文化・教養）の称号が与えられます。

授業科目	国試指定科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	担当教員	橋本 直子/藤波 由香/浴本 涼子
科目英名	Veterinery Nursing Internal MedicineⅠ（Basic）			竹尾 恵/梅田 麻実/菅尾 玲奈
開講期間	1 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目／ 講義
到達目標				
実習科目「動物内科看護学実習Ⅰ」と並行して行い、動物看護を学ぶ上で必要な基礎的な知識と技術理論を総括的に修得することを目標とする。				
授業概要				
犬の健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、犬の扱い方、外貌、保定法、一般身体検査、投薬法、注射などについて理解する。				
授業計画				
1 オリエンテーション:愛玩動物看護師の仕事、動物内科看護学と動物内科看護学実習について				
2 消毒法、消毒薬の希釈				
3 簡単な保定:保定の目的、立位、座位、横臥位などの基本的な保定、口輪やエリザベスカラーを用いた保定				
4 一般身体検査 1:望診、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧、CRT)				
5 一般身体検査 2:頭部、眼、鼻				
6 一般身体検査 3:口腔内、歯、可視粘膜				
7 一般身体検査 4:体幹、四肢、歩様				
8 一般身体検査 5:ヘルニア、外部生殖器、肛門周囲				
9 一般身体検査 6:リンパ節、皮膚、脱水				
10 一般身体検査 7:聴診、打診、触診				
11 投薬法:薬の投薬方法や注意点				
12 調剤法:調剤器具や略語・調剤の流れ				
13 薬用量計算:注射・調剤に関わる薬用量計算				
14 注射:シリンジ、注射針、バイアル、アンプルの扱い方				
15 診察時の保定:注射、採血時の保定				
履修上の注意				
実習科目「動物内科看護学実習Ⅰ」と並行して行う科目である				
成績評価				
課題提出:100％(出席し、かつ課題提出をもって評価する)				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
動物内科看護学Ⅰ（基礎）および動物内科看護実習Ⅰでの配布資料やノート等				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)				
動物内科看護学実習Ⅰで学習した内容も併せて復習すること				
参考書:『臨床動物看護学①』『新・小動物看護用語辞典』エデュワードプレス				
担当教員の実務経験				
浴本涼子:獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。				

授業科目	国試指定科目 動物内科看護学Ⅱ(応用)	担当教員	橋本 直子/藤波 由香/浴本 涼子
科目英名	Veterinary Nursing Internal MedicineⅡ(Advance)		竹尾 恵/梅田 麻実/菅尾 玲奈
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目/講義
到達目標			
実習科目「動物応用看護学実習」と並行して行い、1 年次講義科目「動物内科看護学Ⅰ(基礎)」および実習科目「動物内科看護学実習Ⅰ」を基礎とした動物看護に必要な実践的な知識の修得を目標とする。			
授業概要			
内科診療の補助に関する必要な知識を学び、輸液、輸血、各種生体検査、犬のほか猫やエキゾチックアニマルの扱い方と保定法、入院中、在宅での看護に必要な酸素吸入、強制給餌などについて学ぶ。			
授業計画			
1 動物内科看護学Ⅰ(基礎)復習 2 輸液1(輸液とは、適応とリスク、輸液剤) 3 輸液2(静脈確保、保定) 4 輸液3(輸液の準備) 5 輸液4(輸液ポンプ) 6 輸液5(自然落下法と計算) 7 輸液6(シリンジポンプ、三方活栓) 8 輸液7(輸液中の管理) 9 消毒薬 10 猫の扱い方、保定法 11 エキゾチックアニマルの扱い方、保定法 12 歯科衛生 13 採血、採尿法 14 眼・耳の検査 15 皮膚検査 16 皮膚疾患の看護:スキンケア、薬用シャンプー 17 栄養学1(ペットフード) 18 栄養学2(療法食) 19 強制給餌 20 老齢動物の看護(ハイシニア) 21 動物看護過程 22 神経学的検査1 23 神経学的検査2 24 X線検査 25 心電図検査・血圧測定 26 超音波検査 27 内視鏡検査 28 CT・MRI 検査 29 膣スミア検査 30 輸血			

履修上の注意
実習科目「動物応用看護学実習」と並行して行う科目である。 筆記試験にて6割以上の得点であることが科目取得における必須条件となる。
成績評価
期末試験:80%、課題レポート・小テストなど:20%
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの
動物内科看護学Ⅱ(応用)および動物応用看護実習での配布資料やノート等
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)
参考書:『臨床動物看護学①・③』『新・小動物看護用語辞典』エデュワードプレス
担当教員の実務経験
浴本涼子:獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目	動物外科看護学	担当教員	小野 貴子
科目英名	Veterinary Surgical Nursing			武藤 眞
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 外傷、創傷管理				
1) 創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する				
2) ドレーンの装着と管理法について理解する				
3) 止血法について理解する				
4) 骨折・脱臼の管理について理解する				
2. 術前準備				
1) 術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査について理解する				
2) 無菌的処置の重要性について理解する				
3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する				
4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する				
5) 手術室の機器類(无影灯、電気メス本体など)、準備について理解する				
6) 器械台の準備について理解する				
7) 動物の適切なポジショニングについて理解する				
8) 術野の消毒について理解する				
9) 手洗い、手術着・手袋の着用法について理解する				
3. 麻酔				
1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する				
2) 麻酔リスクの評価(ASA 分類など)について理解する				
3) 麻酔前投与(鎮静など)について理解する				
4) 注射麻酔(局所麻酔を含む。)の手技について理解する				
5) 吸入麻酔の手技について理解する				
6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する				
7) 麻酔監視項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など)の監視方法、意義について理解する				
8) 麻酔記録の作成法について理解する				
4. 術中補助				
1) 代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用法について理解する				
2) 代表的な縫合材(縫合針、縫合糸)の分類と使用法について理解する				
3) 代表的な歯科器具の名称と使用法について理解する				
4) 直接補助(手袋着用下での補助)の内容について理解する				
5) 間接補助(手術回りの補助)の内容について理解する				
5. 術後管理				
1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する				
2) 疼痛管理の意義と方法について理解する				
3) 術創管理と包帯法について理解する				
4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する				
5) 褥創の予防及び対処法(体位変換など)について理解する				

51

6. 救急救命

- 1) エマージェンシーの原因と病態について理解する
- 2) 一次救命措置 (BLS) について理解する
- 3) 二次救命措置 (ALS) について理解する
- 4) 気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する

7. 動物理学療法

- 1) 動物理学療法の目的と意義について理解する
- 2) 代表的な理学療法の原理と手技について理解する

授業概要

外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。

授業科目	国試指定科目 動物外科看護学Ⅰ(基礎)	担当教員	小野 貴子
科目英名	Veterinary Nursing Surgery I (Basic)		武藤 眞
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
手術に必要な麻酔については、安全で良質な麻酔看護技術を身につけ、周麻酔期において包括的ケアができるようになることを目的とする。また、手術前後の動物看護に必要な外科の基礎知識を養う。			
授業概要			
麻酔に必要な器具機材と麻酔の方法、手術補助に欠かせない術前術中術後の看護について学習する。 高度化により難しくなった周麻酔期業務に対応するために、麻酔に関する知識すなわち麻酔の手技や処置の内容、使用される薬剤、医療機器・機材のしくみ、そして周麻酔期の患者動物観察と対応法、麻酔管理や疼痛管理の重要性などについて講義する。また、特に注意すべき事例についても講義する。			
授業計画			
1 麻酔の歴史と概論(小野) 2 麻酔の流れと麻酔前準備(小野) 3 麻酔前投与薬と麻酔(小野) 4 麻酔モニタリング 1(モニタリング指針等)(小野) 5 麻酔モニタリング 2(モニター機器の準備とその意義等)(小野) 6 麻酔モニタリング 3(モニタリングの実際)(小野) 7 麻酔からの覚醒と麻酔後管理、麻酔カルテ(小野) 8 疼痛管理～痛くない手術を行うために～(小野) 9 注意すべき事例1(短頭種、肥満動物など)(小野) 10 注意すべき事例2(高齢動物など)(小野) 11 手術における動物看護師の役割と術前管理(武藤) 12 滅菌と消毒(武藤) 13 術中術後管理(武藤) 14 手術器具と手術補助(武藤) 15 創傷管理(武藤)			
履修上の注意			
確認テスト及び宿題を課すことがあります。(1-10 回目) 毎回プリントを配布する。			
成績評価			
期末試験 85%、授業参加度 15%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
プリントを配布			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
講義後は各回の内容を必ず復習し、次回の授業までに理解しておくか、疑問点を明確にして質問するなど、講義内容の習得に努力すること。参考図書については、第 1 回の講義で紹介します。			
担当教員の実務経験			
小野 貴子:動物病院での実務経験を活かし、動物看護師に求められる知識だけでなく、心構えについても講義する。			

授業科目	国試指定科目	動物臨床看護学総論	担当教員	橋本 直子/藤波 由香
科目英名	General Theories of Veterinary Clinical Nursing		竹尾 恵/梅田 麻実/菅尾 玲奈	
開講期間	1 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義
到達目標				
1. 動物看護過程の展開				
1)動物看護過程の目的や意義、方法について理解する				
2)動物看護過程の各ステップについて理解する				
3)アセスメントについて理解する				
4)事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する				
5)問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する				
6)動物看護過程の実施と評価について理解する				
2. 診療記録				
1)診療録(カルテ)の作成方法について理解する				
2)動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する				
3. 動物看護業務				
1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する				
2)ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する				
3)事故管理、防止システムについて 理解する				
4)若齢動物看護の特徴について理解する				
5)老齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する				
6)家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する				
4. ターミナルケアに関わる技術				
1)ターミナルケアの目的と意義について理解する				
2)QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する				
3)グリーフケアについて理解する				
4)死亡した動物への対応とエンゼル ケアについて理解する				
授業概要				
動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。				

授業科目	国試指定科目 動物臨床看護学総論	担当教員	橋本 直子/藤波 由香
科目英名	Veterinary Clinical Nursing Overview		竹尾 恵/梅田 麻実/菅尾 玲奈
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
愛玩動物看護師として身に付けるべき現場に即した知識と、動物看護過程の一連のプロセスを学び、動物看護の基本的な考え方を修得することを目標とする。			
授業概要			
愛玩動物看護師の仕事、カルテについてや、ライフステージ別の動物看護などについて学ぶ。動物看護過程については、動物看護記録のつけ方、動物看護計画の立案などを学び、事例ごとの動物看護の基本的な考え方を修得する。			
授業計画			
1 動物看護業務 1: チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割 2 動物看護業務 2: 診療録(カルテ)、薬の保管 3 動物看護業務 3: クリティカルパス、事故管理、防止システム 4 妊娠動物・新生子の看護 5 幼齢動物の看護 6 老齢動物の看護 7 ターミナルケア 8 グリーフケア 9 動物看護過程とは・POMR とは 10 動物看護過程を基にした記録法 SOAP とは 11 動物の病気と看護 12 動物看護過程1: 個別の看護を考える「尿石症」 13 動物看護過程2: 個別の看護を考える「犬パルボウイルス感染症」 14 動物看護過程3: 個別の看護を考える「椎間板ヘルニア」 15 安楽死			
履修上の注意			
第 4-6 回目の内容は、動物内科看護学実習 I と並行して行う。 期末試験にて 6 割以上の得点であること、動物看護過程等の課題を提出していることが科目取得における必須条件となる。			
成績評価			
期末試験: 60%、授業参加度(課題提出含む): 40%			
教科書(授業必携本) / 毎回持参するもの			
適宜授業資料を配布する			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
参考書:『臨床動物看護学①・③』エデュワードプレス			
担当教員の実務経験			

授業科目	国試指定科目	動物臨床看護学各論	担当教員	橋本 直子
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical Nursing		浴本 涼子／高柳 信子	
開講期間	1 学年 後期 必修 2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	

到達目標

1. 徴候や疾患の理解と対処

- 1) 代表的な徴候や病態、疾患について理解する
- 2) 徴候の評価と記録法について理解する
- 3) 痛みの評価について理解する
- 4) 徴候・疾患に基づいた援助について理解する

2. 代表的な徴候

- 1) 全身徴候 食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦
- 2) 特異的徴候 運動不耐、咳、心雑音、不整脈(房室 ブロック、期外収縮、心房・心室細 動)、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、掻痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向
- 3) 特異的病態 尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管 内凝固(DIC)

3. 代表的な疾患

- 1) 循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔 欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右 大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸 状虫症
- 2) 呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ
- 3) 消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転 症候群(GDV)、胃炎、蛋白喪失性腸症 (PLE)、炎症性腸疾患(IBD)、食事反 応性下痢(FRD)、抗菌薬反応性下痢 (ARD)、腸リンパ管拡張症、消化管内 異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大 結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リポドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症 (EPI)
- 4) 泌尿器疾患急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症
- 5) 内分泌疾患甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症(ク ッシング症候群)、副腎皮質機能低下症(アジソン病)、尿崩症
- 6) 生殖器疾患 潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、膣脱、乳腺 炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍
- 7) 整形外科疾患骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靱帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫
- 8) 皮膚疾患膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性 肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ
- 9) 神経疾患脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー 症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群
- 10) 眼疾患結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出(チェリーアイ)、異所性睫毛
- 11) 造血器・免疫介在性疾患免疫介在性溶血性貧血(IMHA)、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎(FIP)、猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫

12) 緊急疾患 交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー

4. 担がん動物の看護

1) がんの診断のための検査と治療の手順について理解する

2) 腫瘍随伴症候群について理解する

3) がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する

4) 担がん動物の治療と化学療法 of 副作用について理解する

授業概要

様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。

授業科目	国試指定科目	動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	担当教員	橋本 直子
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical NursingⅠ (Basic)			浴本 涼子
開講期間	1 学年 後期 必修		科目区分／形式	専門教育科目 / 講義
到達目標				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療について理解する。また各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、考える力を養うことを目標とする。				
授業概要				
様々な疾患について、病態生理と症状、必要な処置、治療に関する基本的な知識について学ぶ。その上で、各々の機能障害を持つ動物に対して必要な看護をするための評価と介入の方法について学ぶ。				
授業計画				
1 全身徴候（橋本）				
2 特異的徴候Ⅰ（橋本）				
3 特異的徴候Ⅱ（橋本）				
4 特異的徴候Ⅲ（浴本）				
5 去勢手術・避妊手術、手術により予防できる疾患（浴本）				
6 犬糸状虫症（橋本）				
7 外部寄生虫症（橋本）				
8 尿石症（浴本）				
9 歯周病（浴本）				
10 ワクチンで予防できる感染症Ⅰ（浴本）				
11 ワクチンで予防できる感染症Ⅱ（浴本）				
12 皮膚疾患Ⅰ（橋本）				
13 皮膚疾患Ⅱ（橋本）				
14 皮膚疾患Ⅲ（橋本）				
15 皮膚疾患Ⅳ（橋本）				
履修上の注意				
順不同の場合があるため時間割を確認すること。				
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので、配布資料は毎回忘れずに持参すること。				
成績評価				
期末試験 70％、小テスト 30％				
教科書（授業必携本）／ 毎回持参するもの				
『臨床動物看護学 3 動物臨床看護学総論・各論』エデュワードプレス、配布プリント				
事前・事後学修（予習・復習）の内容 / 参考書（自主的な学習用）				
授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。				
担当教員の実務経験				
浴本涼子：獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。				

授業科目	国試指定科目	動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	担当教員	橋本 直子／浴本 涼子
科目英名	Particular Theories of Veterinary Clinical NursingⅡ（Advanced）			高柳 信子
開講期間	2 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義
到達目標				
様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療について理解する。また各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、考える力を養うことを目標とする。				
授業概要				
様々な疾患について、病態生理と症状、必要な処置、治療に関する基本的な知識について学ぶ。その上で、各々の機能障害を持つ動物に対して必要な看護をするための評価と介入の方法について学ぶ。				
授業計画				
1	循環器疾患1（橋本）			
2	循環器疾患2（橋本）			
3	循環器疾患3（橋本）			
4	循環器疾患4（橋本）			
5	呼吸器疾患1（橋本）			
6	呼吸器疾患2（橋本）			
7	呼吸器疾患3（橋本）			
8	呼吸器疾患4（橋本）			
9	消化器疾患1（浴本）			
10	消化器疾患2（浴本）			
11	消化器疾患3（浴本）			
12	消化器疾患4（浴本）			
13	泌尿器疾患1（浴本）			
14	泌尿器疾患2（浴本）			
15	泌尿器疾患3（浴本）			
16	腫瘍疾患1（浴本）			
17	腫瘍疾患2（高柳）			
18	腫瘍疾患3（高柳）			
19	腫瘍疾患4（高柳）			
20	内分泌疾患1（浴本）			
21	内分泌疾患2（浴本）			
22	生殖器疾患1（浴本）			
23	生殖器疾患2（浴本）			
24	眼科疾患1（浴本）			
25	眼科疾患2（浴本）			
26	造血器・免疫介在性疾患1（浴本）			
27	造血器・免疫介在性疾患2（浴本）			
28	造血器・免疫介在性疾患3（浴本）			
29	感染症1（橋本）			
30	感染症2（橋本）			

履修上の注意
順不同の場合があるため時間割を確認すること。
適宜プリントを配布する。次回に続くこともあるので、配布資料は毎回忘れずに持参すること。
成績評価
期末試験 70%、小テスト 30%
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの
『臨床動物看護学 3 動物臨床看護学総論・各論』エデュワードプレス、配布プリント
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)
授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は各回の内容を復習すること。
担当教員の実務経験
浴本涼子:獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	国試指定科目	動物臨床検査学	担当教員	菅尾 玲奈／藤原 恵利子
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine			矢野 実季子
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 臨床検査の基礎				
1)臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する				
2)基準値、感度、特異度、精度管理について理解する				
3)検体採取法(血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など)について理解する				
2. 血液検査				
1)血漿、血清の分離法について理解する				
2)全血球計算法(CBC)について理解する				
3)血液塗抹の作製及び観察法について理解する				
4)ヘマトクリット管を用いた検査について理解する				
5)凝固検査の目的と意義について理解する				
6)血液化学検査の目的と意義について理解する				
7)血液ガス検査の目的と意義について理解する				
8)免疫学的検査の目的と意義について理解する				
3. 尿検査				
1)尿の性状検査について理解する				
2)尿沈渣について理解する				
4. 糞便検査				
1)虫卵・原虫の検出法について理解する				
2)細菌の観察法について理解する				
5. 細胞診と病理組織検査				
1)細胞診断の目的と方法について理解する				
2)病理組織検査のための検体の取扱いについて理解する				
6. 遺伝子検査				
1)遺伝子検査の目的と応用例について理解する				
2)遺伝子検体の採取及び取扱いについて理解する				
授業概要				
様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。				

授業科目	国試指定科目 動物臨床検査学	担当教員	菅尾 玲奈/藤原 恵利子
科目英名	Veterinary Laboratory Medicine		矢野 実季子
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
動物病院では治療方針の決定や診断のために数多くの検査が行われている。特に生体から得られた材料(検体)を検査することは日常的に行われており、それを行うのは主に愛玩動物看護師である。愛玩動物看護師として獣医療に必要な検査の知識や技術を習得し、さらに外からはわからない変化を数値化することにより、動物の状態を客観的にみる力を身に着けることを目標とする。			
授業概要			
動物臨床検査の現状、検体の取り扱い、血液検査、尿検査、糞便検査、耳垢検査などの様々な検査について講義する。実習科目「動物臨床検査学実習」と並行して行う。			
授業計画			
1 臨床検査概論 2 血液学 1:血液成分、血液塗抹、染色 3 血液学 2:Ht、TP、黄疸指数、mf 4 血液学 3:CBC 5 血液学 4:生化学 6 血液学 5:凝固検査 7 血液学 6:血液ガス検査、免疫学的検査 8 尿検査 9 尿沈査検査 10 内部寄生虫、外部寄生虫 11 糞便検査 12 耳垢検査 13 皮膚検査、細胞診 14 遺伝子検査、細菌学的検査 15 総まとめ			
履修上の注意			
実習科目「動物臨床検査学実習」と並行して行う科目である			
成績評価			
筆記試験 70%、小テスト:30%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
筆記用具			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
参考書:『愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学 動物臨床検査学』(エデュワードプレス)			
担当教員の実務経験			
藤原恵利子:臨床検査技師。臨床検査企業にて臨床検査技師として勤務した経験を活かし講義を行う。 矢野実季子:動物看護師。動物病院にて動物看護師として勤務した経験を活かし講義を行う。			

授業科目	国試指定科目	動物医療コミュニケーション	担当教員	橋本 直子/藤波 由香/竹尾 恵
科目英名	Veterinary Medical Communication			梅田 麻実/菅尾 玲奈/中村 晶
開講期間	1 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	
到達目標				
1. クライアントエデュケーション				
1) 適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供できる				
2) 動物と飼い主が良好な関係を構築 する方法について理解する				
3) 病気の適切な予防法(予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など)について理解する				
4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する				
2. 院内コミュニケーション				
1) 飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する				
2) 獣医療面接のプロセス(導入、稟 告、質問、傾聴、要約、確認、終結など)について理解する				
3) チーム獣医療に関するコミュニケーション技能(報告・連絡・相談)について理解する				
3. 院内業務				
1) 受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について理解する				
2) 物品購入や管理について理解する				
3) ペット保険について理解する				
授業概要				
事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。				

授業科目	国試指定科目 動物医療コミュニケーション	担当教員	橋本 直子/藤波 由香/竹尾 恵 梅田 麻実/菅尾 玲奈/中村 晶
科目英名	Veterinary Medical Communication		
開講期間	1 学年 後期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
本講義では、前半は社会人に必要な意識と態度について考察し、毎回学習した内容が身につく様にしていく。特に上下関係の重要性を説き、学生には他人への思いやりや気遣いといった心の大切さや優しさに気付いてもらうことを目標にする。後半では、愛玩動物看護師としての基礎的な問診の方法、飼い主教育、飼い主やスタッフとのコミュニケーションスキルの修得を目標とする。			
授業概要			
上下関係が基本の職場では、相手を気遣ってのコミュニケーションがとても大切であることを学ぶ。前半はその鍵となる挨拶・身だしなみ・言葉遣い・電話応対・来客応対等を公私の場合で比較しながら考察する。後半では、愛玩動物看護師として就職した際に役立つ即戦力的な知識の修得を目指し、動物病院での受付業務、受付、電話応対法、問診する際の基本的なポイントや疾患別のポイント、日常健康管理に関わる飼い主教育、入退院時の対応、入院動物のストレスに関する対処などについて学ぶ。			
授業計画			
1 授業ガイダンス/社会人に必要な意識・態度とコミュニケーション(中村) 2 言葉遣いと感じのよい話し方(敬語・クッション言葉・間違いやすい敬語等)(中村) 3 電話応対の基本(電話をかける時と受ける時の心得・言葉遣い)(中村) 4 ビジネス文書の基本(手紙・電子メールの作成)(中村) 5 まとめ(ロールプレイング演習)(中村) 6 動物病院業務 1:受付業務①(受付、電話応対、会計等) 7 動物病院業務 2:受付業務②業務(トラブル対応、ペット保険、在庫管理等) 8 動物病院業務 3:獣医療面接①基本的問診 9 動物病院業務 4:獣医療面接②疾患別問診 10 動物病院業務 5:クライアントエデュケーション 去勢・避妊手術 11 動物病院業務 6:クライアントエデュケーション フィラリア予防 12 動物病院業務 7:クライアントエデュケーション ノミ、マダニ予防 13 動物病院業務 8:クライアントエデュケーション ワクチネーション 14 動物病院業務 9:クライアントエデュケーション デンタルケア 15 動物病院業務 10:入退院時の対応(入退院の際の注意点)、入院看護について(入院動物の看護方法やストレス)			
履修上の注意			
第1-5回目:積極的にメモを取ってください。			
成績評価			
期末試験:60%、授業参加度(課題提出を含む):40%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
適宜プリント配布			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
第1-5回目:講義後は毎回復習して実践に励んでください。そしてそれらを各自しっかりと身につけるように努めましょう 第6-15回目 参考書:『臨床動物看護学①』エデュワードプレス			
担当教員の実務経験			
中村晶:ビジネスマナー教育、キャリア教育の経験を活かして、職場に必要な意識と態度について講義する。			

授業科目	国試指定科目	愛玩動物学		菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子
科目英名	Companion Animal Science		担当教員	望月有紗/すずき莉萌/高野八重子 霍野晋吉
開講期間	1 学年 前期 必修 1 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 講義	
到達目標				
1. 歴史と品種 1) 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する 2) 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する 3) 代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する 4) 血統と血統書について理解する 2. 使役動物 1) 使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉について理解する 2) 補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状について理解する 3) 補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割と育成、適性について理解する 4) その他の使役犬(災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など)の種類と特徴及び現状について理解する 3. 愛玩動物の飼養管理 1) 犬の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など)について理解する 2) 猫の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など)について理解する 3) 愛玩鳥の適切な飼養管理方法(飼養環境、体調管理など)について理解する 4) 代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など)について理解する 4. 動物の基本的な取扱い 1) 動物を安全に散歩・運動・ふれあいをさせることの意義について理解する 2) 基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門 嚢処置、口腔内衛生管理など)の目的・方法について理解する 3) 適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する				
授業概要				
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。				

授業科目	国試指定科目 愛玩動物学(愛玩動物特性)	担当教員	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子
科目英名	Companion Animal Studies		望月有紗/すずき莉萌/高野八重子
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。			
授業概要			
愛玩動物に関する基礎知識、基本用語、適切な飼育管理方法、使役動物の歴史や福祉についての理解を深める。基本的グルーミング(主に犬)に必要な基礎知識を身に付ける。猫の適切な飼養管理方法を習得する。 コンパニオンバードについての基礎知識、基本用語の理解を深める。鳥類栄養学、繁殖方法等に関する基礎知識を習得する。			
授業計画			
1 犬の歴史と品種標準、血統について 2 犬の品種Ⅰ 3 犬の品種Ⅱ 4 犬の飼養管理Ⅰ 5 犬の飼養管理Ⅱ 6 コンパニオンアニマルケアⅠ 7 コンパニオンアニマルケアⅡ 8 使役動物の歴史と福祉(補助犬、その他の使役犬) 9 鳥類の基礎知識 10 コンパニオンバードの栄養と飼養管理 11 コンパニオンバードの種類 12 イエネコの歴史・日本猫の歴史 13 体の構造と機能 14 代表的な長毛種の説明 15 代表的な短毛種の説明			
履修上の注意			
各回の持ち物はシラバス及び掲示を確認すること。 順番は前後する場合があります。			
成績評価			
期末テスト 100%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
各回の持ち物はシラバス及び掲示を確認すること。 配布プリント、第1回目-3回目:『全犬種標準書』、第12回-15回目:『猫の教科書』			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
講義後は各回の内容を復習すること。			
担当教員の実務経験			
すずき莉萌:鳥類ライターとしての経験を活かし、コンパニオンバードの種類、特徴などについて講義する。 高野八重子:ネコの専門家。CFA オールブリード国際審査員としての経験を活かし、猫の種類、歴史、構造と機能等について講義する。			

授業科目	国試指定科目 愛玩動物学(エキゾチックアニマル特性・ケア)	担当教員	霍野 晋吉
科目英名	Companion Animal Studies (Characteristic of Exotic Animal)		
開講期間	1 学年 後期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
動物看護師としてエキゾチックアニマル(哺乳類、鳥類、爬虫類)についての生態と特徴、疾病など知識を幅広く修得することを到達目標とする。知識を備えた上で初めて実践の看護ができるようになる。			
授業概要			
エキゾチックアニマルの看護において必要な生態・特徴・疾病について解説する。犬や猫とは異なる各動物の生態と特徴を習得した上でないと行えない。動物特有の病気の知識も把握し、実際の現場で看護が実践できるよう説明する。			
授業計画			
1 エキゾチックアニマル総論(前半) 2 エキゾチックアニマル総論(後半) 3 ハムスター 4 フェレット 5 ウサギ(前半) 6 ウサギ学(後半) 7 モルモット 8 チンチラ 9 デグー 10 ハリネズミ 11 フクロモモンガ 12 カメ(前半) 13 カメ(後半) 14 トカゲ 15 両生類			
履修上の注意			
特になし			
成績評価			
レポート課題:50%、授業参加度:50%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 増補改訂版』(著者:霍野晋吉、横須賀誠)、(出版社:緑書房)			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
『カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編』(著者:霍野晋吉)、(出版社:緑書房)			
『カラーアトラスエキゾチックアニマル 爬虫類・両生類編』(著者:霍野晋吉、中田友明)、(出版社:緑書房)			
『ウサギの基本 JCRA Book Kindle 版』(著者:霍野晋吉)、(出版社:YIL 出版)			
『ウサギの医学』(著者:霍野晋吉)、(出版社:緑書房)			
担当教員の実務経験			
動物病院での診療を活かし、動物看護師としての病気の知識や看護の技術について講義する			

授業科目	コンパニオンアニマルケア論		担当教員	伊藤 真紀/ 望月 有紗 高野八重子
科目英名	Study of Companion Animal Care			
開講期間	2 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	
到達目標				
コンパニオンアニマルケアで必要となる道具の使い方や、基礎知識を覚えることを目標とする。 犬種の特徴を学び、コンパニオンアニマルケアにいかすことを目標とする。				
授業概要				
コンパニオンアニマルケアの技術・知識以外に伴侶動物を飼ううえで必要なグッズなど、幅広く学ぶ。				
授業計画				
1 コンパニオンアニマルケアにおける使用器具と手入れ用語の復習 2 基礎知識 犬体各部名称、皮膚、被毛の構造について 3 クリッピング クリッパーの構造、被毛が刈れる仕組みについて 4 シザーリング ハサミの構造や種類、カットテクニックについて 5 トリミング ペットクリップのカット法 顔・足・ボディのハサミの入れ方について 6 ノーマル及びペットクリップについて 7 品種について ① 8 品種について ② 9 品種について ③ 10 グルーミングによる疾患 11 シャンプーの種類と効果 12 ペットグッズについて 13 血統猫とは(血統猫の意義と血統書について) 14 繁殖学(繁殖と出産・ヒマラヤンの誕生について) 15 猫の飼育管理				
履修上の注意				
特になし。各回の持ち物はシラバスを確認すること。				
成績評価				
期末テスト 100%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
第 7 回目-9 回目:『全犬種標準書』、第 13～15 回目:『猫の教科書』				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)				
各回の授業の復習をすること。コンパニオンアニマルケア実習にも活かすこと。				
担当教員の実務経験				
高野八重子:ネコの専門家。CFA オールブリード国際審査員としての経験を活かし、猫の種類、血統猫の意義・繁殖方法、飼育管理等について講義する。				

授業科目	ドッグトレーニング論		担当教員	菅 直子 嶋田 三那子
科目英名	Dog Training Theory			
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目／ 講義	
到達目標				
犬の行動様式の特徴や学習理論、問題行動の原因について学ぶ。				
授業概要				
犬の行動発達、学習理論、トレーニング技法、問題行動の定義、要因、対応、予防について解説する。				
授業計画				
1 飼い主へのアドバイス、手紙の書き方				
2 犬の生態としつけ				
3 犬の起源、役割				
4 犬の心理と行動、犬の発達段階				
5 犬との暮らし 環境設定、クレート				
6 犬との暮らし 排泄、社会化トレーニング				
7 学習理論 レスポンデント条件付け(分化強化、高次条件付け)				
8 学習理論 オペラント条件付け①(強化)				
9 学習理論 オペラント条件付け②(弱化)				
10 学習理論 消去				
11 ボディランゲージ、犬のストレス、犬のコミュニケーション				
12 効果的なトレーニング方法、連鎖、逆行連鎖、シェイピング、ターゲッティング				
13 刺激性制御、弁別刺激				
14 子犬、高齢犬との暮らし				
15 問題行動の対処法				
履修上の注意				
内容が次回に続くことがあるため、配布資料は毎回持参すること。				
成績評価				
期末試験 100%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
前回までに配布したプリント その他は適宜指示します。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	国試指定科目	動物形態機能学実習		橋本直子/藤波由香
科目英名	Practice of Animal Anatomy and Physiology		担当教員	浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
開講期間	1 学年 後期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義	
到達目標				
1. 運動器 1)骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する 2)代表的な関節の名称と構造、機能について理解する 3)代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する 2. 内臓器官 1)模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する 2)生殖器の雌雄差について理解する 3. 顕微鏡の取扱い 1)顕微鏡各部位の名称、鏡検条件(倍率など)について理解する 2)顕微鏡の適切な操作法について修得する 3)顕微鏡の適切な管理法について修得する 4. 組織像の観察 1)主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する 2)組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する				
授業概要				
動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。				

授業科目	国試指定科目 動物形態機能学実習	橋本直子/藤波由香
科目英名	Veterinary Functional Anatomy, Student Laboratory	担当教員 浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
開講期間	1 学年 後期 必修	科目区分/形式 専門教育科目 / 実習
到達目標		
講義科目「動物形態機能学Ⅰ」にて学修した組織・器官及び体の構造や機能に関して、観察と実験を通じて具体的に体験し理解することを目標とする。		
授業概要		
動物の身体の形態と機能を、骨格標本や筋肉模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。		
授業計画		
1 犬の体表解剖学・生殖器 2 犬の骨格に関する実習 3 犬の関節に関する実習 4 猫の体表解剖学・骨格に関する実習 5 犬の筋肉に関する実習 6 眼・内臓に関する実習 7 組織像の観察 1 8 組織像の観察 2		
履修上の注意		
出席率 70% 未満では科目取得できないため、注意すること。		
成績評価		
授業参加度: 60%、授業内での小テスト及び課題提出など: 40%		
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの		
手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器 第 1 回-6 回:『犬のカラーリングアトラス』学窓社、色鉛筆(12 色あれば良い) * 各回の持ち物、実習着等については別途事前に告知する		
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)		
講義科目「動物形態機能学Ⅰ」の講義内容を復習して臨むこと		
担当教員の実務経験		
浴本涼子: 獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。		

授業科目	国試指定科目	動物内科看護学実習	橋本直子/藤波由香
科目英名	Practice of Veterinary Medical Nursing	担当教員	浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 講義
到達目標			
1. 身体検査 1) 全身状態(意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む。)を評価できる 2) バイタルサインを評価できる(体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間(CRT)、股動脈圧) 2. 診察補助 1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる 2) 基本的な保定を実施することができる 3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる 4) 採血・採尿(尿カテーテルの挿入を含む。)の手順を習得している 5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している 3. 輸液・輸血に関わる技術 1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる 3) 輸液・輸血中の動物を管理できる 4. マイクロチップに関わる技術 1) マイクロチップの適切な挿入部位について理解する 2) マイクロチップ装着手順を習得している 5. 生体検査 1) 心電図検査を実施し、結果を記録できる 2) X線撮影のための基本的な保定ができる 3) 放射線防護のための装備を正しく扱える 4) 超音波検査のための基本的な保定ができる 5) 神経学的検査の所見を記録できる 6) 眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助ができる 7) 皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助ができる 8) 外耳道検査の補助ができる			
授業概要			
内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で 学んだ知識の実践力を習得する。			

授業科目	国試指定科目 動物内科看護学実習 I	橋本直子/藤波由香
科目英名	Veterinary Nursing Internal Medicine Practice I	担当教員 浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式 専門教育科目 / 実習
到達目標		
講義科目「動物内科看護学 I (基礎)」と並行して行い、犬の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物看護学で学んだ知識の実践力を修得することを目標とする。		
授業概要		
内科診療に必要な手技など、動物看護学で学んだ基礎的な知識の実践力を修得することを目指し、基本的な犬の扱い方、保定法、一般身体検査、消毒法、投薬法、注射などについて実習を行う。		
授業計画		
1 オリエンテーション:実習の注意事項、実習器具の扱い方、動物病院見学 2 消毒薬の扱い方:消毒薬の種類や使用方法 3 簡単な保定:犬の扱い方、立位、座位などの基本的な保定、口輪やエリザベスカラーを用いた保定 4 診察時の保定 1:基本的な診察時の保定 5 一般身体検査 1:望診、バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧) 6 一般身体検査 2:頭部、眼、鼻 7 一般身体検査 3:耳、耳の手入れ 8 一般身体検査 4:口腔内、歯、可視粘膜(CRT) 9 一般身体検査 5:一般身体検査復習 1 10 一般身体検査 6:体幹、四肢、歩様 11 一般身体検査 7:ヘルニア、外部生殖器、肛門周囲 12 一般身体検査 8:リンパ節、皮膚、脱水 13 一般身体検査 9:聴診、打診、触診 14 一般身体検査 10:一般身体検査復習 2 15 実技試験 1 16 デンタルケア 17 投薬法(経口・局所投与法):薬の投薬方法や注意点 18 投薬法(調剤法) 1:調剤器具の扱い、調剤の流れ 19 投薬法(調剤法) 2:薬用量計算と分包 20 注射 1:シリンジ、注射針、バイアルの取り扱い 21 注射 2:薬用量計算とアンプルの取り扱い 22 調剤、注射復習 23 ワクチネーション:ワクチンの準備、証明書作成、飼い主への説明 24 診察時の保定 2:注射・採血・採尿時の保定 25 保定法復習 26 妊娠動物・新生子・幼齢動物の看護 27 老齢動物の看護 28 総復習:保定法、調剤法、注射などについての復習 29 実技試験 2 30 実技解答:実技試験の復習		

履修上の注意
出席率 70%未満、実技試験・筆記試験における基準点(年度により変動)の取得、長期休暇課題の提出は科目取得のための必須条件となる。
成績評価
授業参加度(授業内小テスト、課題レポート等含む):50%、実技試験・筆記試験:50%
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの
実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物内科看護学Ⅰ(基礎)および動物内科看護学実習Ⅰで使用した配布資料、ノート等 *各回の持ち物は別途、配布プリント参照
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)
講義科目「動物内科看護学Ⅰ(基礎)」の内容を実践するため、必ず講義内容を復習して実習に臨むこと。 参考書:『臨床動物看護学①』『新・小動物看護用語辞典』エデュワードプレス
担当教員の実務経験
浴本涼子:獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。

授業科目	動物応用看護学実習		担当教員	橋本直子/藤波由香
科目英名	Veterinary Nursing Applied Practice			浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
開講期間	2 学年 後期 必修	科目区分／形式		専門教育科目／ 講義
到達目標				
講義科目「動物内科看護学Ⅱ（応用）」と並行して行い、1 年次講義科目「動物内科看護学」および実習科目「動物内科看護学実習Ⅰ」を基礎とし、動物看護に必要な実践的な知識と技術を総括的に修得することを目標とする。				
授業概要				
実践的な犬や猫、エキゾチックアニマルの保定法、輸液管理、各種生体検査などについて実習を行う。				
授業計画				
1 輸液 1(留置、保定)				
2 輸液 2(輸液ポンプ、自然落下)				
3 猫の保定法				
4 エキゾチックアニマルの保定法				
5 耳、皮膚の検査				
6 眼の検査				
7 マイクロチップ(マイクロチップの装着手順と保定、手続きについて)				
8 神経学的検査				
9 X 線検査				
10 心電図検査				
11 超音波検査				
12 診察時の保定復習				
13 注射・輸液復習				
14 調剤法復習				
15 実技試験				
履修上の注意				
講義科目「動物内科看護学Ⅱ（応用）」と並行して行う科目である。				
出席率 70%未満、実技試験における基準点(年度により変動)の取得、長期休暇課題の提出は科目取得のための必須条件となる。				
成績評価				
授業参加度:20%、実技試験、課題レポート、授業内小テスト:80%				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物内科看護学Ⅱ（応用）および動物応用看護実習での配布資料やノート等				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
講義科目「動物内科看護学Ⅱ（応用）」の内容を実習として行うため、必ず講義内容の復習をして実習に臨むこと				
参考書:『臨床動物看護学①・③』『新・小動物看護用語辞典』エデュワードプレス				
担当教員の実務経験				
浴本涼子:獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。				

授業科目	国試指定科目	動物臨床検査学実習		菅尾玲奈/矢野実季子
科目英名	Practice of Veterinary Laboratory Medicine		担当教員	橋本直子/藤波由香/浴本涼子 竹尾恵/梅田麻実/渡辺彩希
開講期間	1 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義
到達目標				
1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる 3) 血漿、血清を分離できる 4) 血液塗抹標本を作製、染色できる 5) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 6) 全血球計算及び血液化学検査を実施できる 7) 簡易血清学的検査を実施できる 8) 尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる 9) 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 10) 糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる 11) 細胞診の準備、補助ができる				
授業概要				
検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。				

授業科目	国試指定科目 動物臨床検査学実習	担当教員	菅尾玲奈/矢野実季子 橋本直子/藤波由香/浴本涼子 竹尾恵/梅田麻実/渡辺彩希
科目英名	Veterinary Clinical Examination Practice		
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 実習
到達目標			
動物病院では治療方針の決定や診断のために数多くの検査が行われている。特に生体から得られた材料(検体)を検査することは日常的に行われており、それを行うのは主に愛玩動物看護師である。愛玩動物看護師として獣医療に必要な検査の知識や技術を習得し、さらに外からはわからない変化を数値化することにより、動物の状態を客観的にみる力を身に着ける。検査を行う目的や意義を理解し、基本的な検査手技を身につけ、また、感染性物質の取り扱いに関しても意識づけることを目指す。			
授業概要			
講義科目「動物臨床検査学」と並行して行い、検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、講義で学んだ知識の実践力を習得する。顕微鏡や検査器具の使い方をはじめ、検体の取り扱い、血液検査、尿検査、糞便検査、耳垢検査といった検体検査の目的や検査方法、基準値との比較などについて段階的に実習を行っていく。			
授業計画			
1 検査機器と器具の基本操作 2 血液検査 1:血液塗抹、血球の形態観察、白血球百分比 3 血液検査 2:血液塗抹、白血球百分比 4 血液検査 3:Ht、TP、黄疸指数、CBC 5 血液検査 4:百分比、CBC、生化学 6 血液検査 5:mf、キット 7 血液検査 6:血液検査総復習 8 尿検査 1:尿検査、尿沈渣検査 9 尿検査 2:尿検査、尿沈渣検査 10 寄生虫検査 11 糞便検査 12 耳垢検査 13 皮膚検査、細胞診 14 実技試験 15 実技解答			
履修上の注意			
感染性物質を取り扱う為、衛生面に気を使いながら実習を行うこと 出席率 70%未満では科目取得できない為注意すること			
成績評価			
提出物 70%、実技試験 30%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
「動物臨床検査学」講義プリント、ユニフォーム一式、手拭きタオル、アルコール綿花、筆記用具 *各回の持ち物は別途、配布プリント参照			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
講義科目「動物臨床検査学」の講義内容を復習して臨むこと 参考書:愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻 動物内科看護学 動物臨床検査学(エデュワードプレス)			
担当教員の実務経験			
矢野実季子:動物看護師。動物病院にて動物看護師として勤務した経験を活かし講義を行う。			

授業科目	国試指定科目	動物外科看護学実習		橋本直子/藤波由香
科目英名	Practice of Veterinary Surrigical Nursing		担当教員	浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
開講期間	2 学年 通年 必修		科目区分／形式	専門教育科目 ／ 講義
到達目標				
1. 術前準備 1) 手術器具の準備、滅菌ができる 2) 手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる 3) 手術に必要な機器、器械台を準備できる 4) 手術台への動物の固定、術野の消毒ができる 5) 手洗い、手術衣や手袋の装着ができる 2. 術中補助 1) 麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる 2) モニター機器(心電図、血圧計な ど)を接続でき、術中監視を行うことができる 3) 麻酔記録を作成することができる 4) 直接補助(器械の受渡しなど)ができる 5) 間接補助(无影灯、保温マットの操作など)ができる 6) 歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる 3. 術後管理 1) 術後の創傷管理(ネット、カラー装着などを含む。)ができる 2) 動物に包帯(粘着性、自着性など)を装着できる 3) 抜糸の補助ができる 4. 救急救命 1) 必要な機材、薬剤を迅速に準備できる 2) 気管挿管を補助できる 3) 心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)の手順を習得している				
授業概要				
手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				

授業科目	国試指定科目 動物外科看護学実習	担当教員	橋本直子/藤波由香 浴本涼子/竹尾恵/梅田麻実 菅尾玲奈/渡辺彩希
科目英名	Veterinary Nursing Surgery Practice		
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 実習
到達目標			
小動物の外科診療や外科手術に関わる基礎的知識や技術の修得を目標とする。			
授業概要			
手術器具や機器、術前準備、消毒法、滅菌操作、麻酔、術中のモニタリング、輸液管理、術後管理や予防歯科処置などについて実習を行う。			
授業計画			
1 外科手術準備 1:小動物用一般外科器具の扱い方、準備 1 2 外科手術準備 2:小動物用一般外科器具の扱い方、準備 2 3 外科手術準備 3:外科手術用リネン類の準備(ドレープ、ガウン等のたたみ方、滅菌準備など) 4 外科手術準備 4:手洗い、キャップ、マスク、ガウン、グローブ装着 5 外科手術準備 5:動物の準備(毛刈り、消毒、ドレーピング) 6 外科手術準備 6:気道確保、気管挿管、麻酔方法、麻酔薬の理解 7 外科手術準備 7:麻酔器、電気メスの扱い方 8 外科手術準備 8:縫合材料、縫合方法 9 外科手術準備 9:復習(外科手術の流れと輸液管理復習) 10 術中管理:術中記録(生体モニター、モニタリング) 11 術中管理:術中補助(直接、間接) 12 術後管理:術後動物の看護 13 包帯法 1 14 包帯法 2 15 外科手術見学(犬猫の去勢・避妊手術) 16 外科疾患の看護 1:骨折など整形外科疾患の治療と看護 17 外科疾患の看護 2:骨折など整形外科疾患の治療と看護 18 外科疾患の看護 3:骨折など整形外科疾患の治療と看護 19 救急看護:救急の際の電話や受付対応・心肺蘇生(心臓マッサージ・マウス to ノーズ) 20 歯科処置 1:歯科衛生、ハンドスケーリング 21 歯科処置 2:超音波スケーラー、歯科ユニット 22 総復習:外科関連、注射、輸液など総合的な復習 23 実技試験			
履修上の注意			
出席率 70%未満、実技試験および筆記試験における基準点(年度により変動)の取得は科目取得のための必須条件となる			
成績評価			
授業参加度:10%、実技試験:40%、筆記試験:40%、授業内小テストおよび課題レポート:10%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
実習用ユニフォーム一式、手拭きタオル、消毒用アルコール、綿花、アルコール綿花用容器、動物外科看護学実習で 使用した配布資料、ノート等			
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
参考書:『臨床動物看護学①・③』『新・小動物看護用語辞典』エデュワードプレス			
担当教員の実務経験			
浴本涼子:獣医師。動物病院勤務の経験を活かし講義を行う。			

授業科目	国試指定科目	動物愛護・適正飼養実習	担当教員	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子
科目英名	Practice of Animal Welfare and Proper Care			望月有紗/寺澤大河/高畑真菜
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分／形式	教養教育科目 ／ 講義	
到達目標				
1. 動物の基本的な取扱い 1) 動物種に応じた安全なハンドリングができる 2) 動物を安全に散歩・運動させることができる 3) 犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具(首輪、胴輪、リード、おもちゃなど)を選択することができる 4) 基本的なグルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)を実施できる 5) 動物の飼養環境を適切に整備できる 2. 飼い主とのコミュニケーション 1) 犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる 2) 動物の適切な飼養方法(飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む。)について指導できる 3) 飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる 4) 動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる 5) 避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる 3. 動物愛護管理行政 1) 動物愛護管理センターの活動を理解する(動物愛護管理センターの見学などを含む。) 2) 動物取扱業に指導すべき内容について理解する 3) 動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる				
授業概要				
動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。				

授業科目	国試指定科目	動物愛護・適正飼養実習	担当教員	菅直子/伊藤真紀/嶋田三那子
科目英名	Kindness, Welfare and Proper Care for Animals Practice		担当教員	望月有紗/寺澤大河/高畑真菜
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 実習	
到達目標				
愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解、実践できる。				
授業概要				
動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、動物愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。				
授業計画			持ち物	
1 ハンドリングⅠ				
2 基本的なグルーミングⅠ(器具説明)				
3 飼育環境整備				
4 基本的なグルーミングⅡ(ブラッシング)				
5 ハンドリングⅡ				
6 基本的なグルーミングⅢ(シャンプー)				
7 避難所等災害時の飼い主支援				
8 犬や猫の品種				
9 犬の運動				
10 法令に基づく飼い主の遵守すべき対応				
11 犬具				
12 飼育困難時の飼い主支援				
13 動物愛護センター				
14 動物取扱業				
15 飼い主とのコミュニケーション				
履修上の注意				
各回の持ち物は掲示を確認すること。 順番は前後する場合があります。				
成績評価				
授業参加度 100%(出席状況、学習態度、提出物などをもとに総合的に評価する)				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
別途掲示参照				
事前・事後学習(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				

授業科目	国試指定科目	動物看護総合実習	担当教員	高柳 信子/有谷 恵美
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary Nursing			平岩 沙織/橋本 直子 福田 美香/神山 由紀子
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式	教養教育科目 ／ 講義	
到達目標				
1. 動物看護業務の理解 1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する 2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する 3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する 2. 動物看護業務の体験 1) 診察室における獣医療補助行為を体験する 2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する 3) 入院動物の看護を体験する 4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する 3. 動物看護業務の実践 1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する 2) スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する 3) 動物看護計画を立案し、実践する 4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する				
授業概要				
実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。				

授業科目	国試指定科目 動物看護総合実習Ⅰ	担当教員	高柳 信子/有谷 恵美
科目英名	Practice of Comprehensive Veterinary NursingⅠ		平岩 沙織/橋本 直子 福田 美香/神山 由紀子
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 実習
到達目標			
愛玩動物看護師の役割や動物診療施設の設備や機能、愛玩動物を適正に管理する方法を理解し、キャンパス内に併設されているコンパニオン・アニマル・センターにおいて、1日の業務の流れ、動物の扱い方や衛生管理等を体験、実践を通じて実務能力を修得する。			
授業概要			
コンパニオン・アニマル・センターにおいて、動物看護業務に参加し、施設の概要や機能、獣医師との連携、飼主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任などを理解し、今後の研修および就職活動に役立てる。			
授業計画			
事前実習1 事前実習2 コンパニオン・アニマル・センター研修 事後授業			
履修上の注意			
研修中は受け身ではなく自ら進んで行動するよう心がけること。日程は毎月掲示にて発表。 日程は毎月掲示にて発表されるため、確認を怠らないこと。授業と重なる場合は総合実習を優先させること。 研修は長期休暇中も実施される。欠席した場合は基本的に振替は行わないので注意すること。			
成績評価			
実習参加状況 50%、レポート 50%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
各自掲示を確認すること			
事前・事後学習(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)			
【事前学習】 あいさつ・言葉遣い・身だしなみの基本を確認し、研修生としての立振る舞い等を説明する。また、検査や衛生管理、消毒方法等、想定される内容の確認を行う。 【事後学習】コンパニオン・アニマル・センターでの研修内容を基に2年次の研修に向け総合的な学習を行う。			
担当教員の実務経験			
高柳信子:獣医師。動物看護総合実習Ⅰにおいてグルーミングサロン併設の動物病院勤務中の臨床経験を活かし 獣医師の立場から動物病院とグルーミングサロンの関係と双方の重要性について実践的指導を行う。 有谷恵美:動物看護師・グルーマー(動物美容師)。動物看護総合実習Ⅰにおいてグルーミングサロン併設動物病院 勤務中の経験を活かし動物病院における動物看護師の業務内容や役割について実践的指導を行う。 平岩沙織:グルーマー(動物美容師)・動物看護師。動物看護総合実習Ⅰにおいて動物病院併設グルーミングサロン 勤務中の経験を活かし動物美容師の業務内容や役割について実践的指導を行う。			

授業科目	国試指定科目 動物看護総合実習Ⅱ	担当教員	橋本 直子/福田 美香
科目英名	Comprehensive Practicum of Animal NursingⅡ		神山 由紀子
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 実習
到達目標			
愛玩動物看護師の役割や動物診療施設の設備や機能、愛玩動物を適正に管理する方法を理解し、動物診療施設において動物看護業務を体験し、診療補助やチーム獣医療、動物看護計画の立案、飼い主指導の実践を通じて実務能力を修得する。			
授業概要			
実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。			
授業計画			
動物病院見学事前学習 動物病院見学 動物病院見学事後学習・動物病院研修事前学習 動物病院研修 動物病院研修事後学習			
履修上の注意			
決められた研修は必ず全日程出席すること 研修中は研修先の指示に従い行動すること			
成績評価			
出席状況 70%、レポート 30%			
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの			
筆記用具、ノート等			
事前学習 見学・研修の目的、見学・研修概要、諸注意			
【事前学習】			
見学・研修の目的 見学では施設の選び方、アポイントメントの取り方、ほうれんそうの徹底、お礼状の書き方等を学び、夏から行われる動物病院での研修や2年後の就職を目指して動物関連の職業について理解を深める。 研修では動物看護業務を体験し、診療補助やチーム獣医療、動物看護計画の立案、飼い主指導について実践する。			
見学・研修概要 見学では、アポイントメントを取ることから、動物病院の立地や診療内容や方針、スタッフ数などを学ぶ。 研修では、5 日間動物病院で研修を行い、動物看護業務を体験する。			
【事後学習】 見学・研修で学んだことを共有し、今後自分が学ぶべきことを把握する。			
担当教員の実務経験			

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）		担当教員	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河
科目英名	Practice of Companion Animal CareⅠ（Basic）			高野八重子/門馬絵美/平田真智子 木下美奈子/茂木彩名/川村真紀子
開講期間	1 学年 通年 必修	科目区分／形式		専門教育科目 ／ 実習
到達目標				
コンパニオンアニマルケアの基礎を学び、回数を重ねることで犬の扱い方・保定法、コンパニオンアニマルケアについての理解を深めることを目標とする。				
動物看護師として身に付けるべき猫の扱い方、保定、グルーミング等の修得を目標とする。				
授業概要				
コンパニオンアニマルケアの流れを学ぶ。				
コンパニオンアニマルケアの必要性を理解し、イヌの扱い方に伴う技術と知識の基礎を習得する。				
動物看護師や動物関連の職業に就職した際、難しい猫の扱い方をグルーミングを通して修得する。				
授業計画				
1 オリエンテーション コンパニオンアニマルケア実習を行う心得やルール、実習の流れについて学ぶ				
2 練習実習① イヌ出し、実習の流れ、器具の使用方法についてマヌカン犬を使用し学ぶ				
3 練習実習② 練習実習①の復習、クリッパーの替刃の脱着				
4 基礎実習① 実際の犬を使用し、器具の使用方法や用語を学ぶ				
5 グルーミングにおける犬の扱い方について				
6 半日実習				
7 クリッピングについて				
8 半日実習				
9 半日実習				
10 半日実習				
11 半日実習				
12 半日実習				
13 半日実習				
14 猫グルーミングの必要性和扱い方、日常の手入れ、保定（高野）				
15 猫グルーミング実習（高野）				
履修上の注意				
猫アレルギーの学生は実習前に申告すること。授業の順番は変更になる場合があります。持ち物は、シラバス及び掲示を確認すること。				
成績評価				
授業参加度 100%（出席状況、学習態度、実技チェック、筆記試験、提出物などをもとに総合的に評価する）				
教科書（授業必携本）／ 毎回持参するもの				
グルーミングノート、犬具一式 5・7 回目：ノートなどメモが取れるもの、筆記用具、青ジャンパー				
14 回目：『猫の教科書』、15 回目：ユニフォーム、コーム、ドライヤー、マスク等				
事前・事後学修（予習・復習）の内容 ／ 参考書（自主的な学習用）				
14 回目授業に際しては、『猫の教科書』のグルーミングページ（P136～）を予習すること				
担当教員の実務経験				
高野八重子：ネコの専門家。猫のグルーミングについて実践的な指導を行う。				

授業科目	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ(応用)		担当教員	伊藤真紀/望月有紗/寺澤大河
科目英名	Practice of Companion Animal CareⅡ(Advance)			早田由貴子/門馬絵美/平田真智子 木下美奈子/茂木彩名/川村真紀子
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 実習	
到達目標				
コンパニオンアニマルケアの実習回数を重ねることで基礎の強化と応用力を身に付けることを目標とする。				
授業概要				
コンパニオンアニマルケアの基本、イヌの扱い方に伴う技術と知識の基礎の強化を図る。また、犬種標準を理解し、その犬の飼育環境や年齢を考慮したケアを習得する。				
授業計画				
1 サマーカットについて(ボディのクリッピング、1mmクリッピングの復習)				
2 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
3 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
4 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
5 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
6 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
7 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
8 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
9 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
10 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
11 筆記テスト				
12 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
13 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
14 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
15 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
16 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
17 半日実習 時間短縮を考え、犬を仕上げる				
18 実技チェック クラスの1/4は実技チェック、他は通常の半日実習				
19 実技チェック クラスの1/4は実技チェック、他は通常の半日実習				
20 実技チェック クラスの1/4は実技チェック、他は通常の半日実習				
21 実技チェック クラスの1/4は実技チェック、他は通常の半日実習				
22 猫(早田)				
23 猫(早田)				
履修上の注意				
授業の順番は変更になる場合があります。持ち物は、シラバス及び掲示を確認すること。				
成績評価				
授業参加度 100%(出席状況、学習態度、実技チェック、筆記試験、提出物などをもとに総合的に評価する)				
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの				
グルーミングノート、犬具一式 1回目:筆記用具、ノート(メモが取れるもの)、黄色ジャンパー				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
必要事項はグルーミングノートに書き込むこと。犬種の理解に努めること。				
担当教員の実務経験				

授業科目	ドッグトレーニング実習Ⅰ(基礎)		担当教員	菅 直子/嶋田三那子 山本 央子
科目英名	Practical Training of Companion DogⅠ (Basic)			
開講期間	1 学年 前期 必修	科目区分/形式	専門教育科目 / 実習	
到達目標				
犬の行動を適切に理解し、飼い主と愛犬のコミュニケーションに役立つ知識を得る。				
授業概要				
犬との快適な暮らしとは、良い犬とは？家庭犬育成に必要な知識と技術を学ぶ。 体罰や強制的な方法を用いらずに、行動の原理に基づいたトレーニング、ハンドリング技術を学ぶ。				
授業計画				
1	施設説明			
2	ハンドリング			
3	人と暮らす犬を知る			
4	行動と学習①レスポナント条件付け			
5	行動と学習②オペラント条件付け(強化)			
6	行動と学習③オペラント条件付け(弱化)			
7	フードランキン			
8	犬とのコミュニケーション			
9	行動と学習④消去			
10	子犬の育て方①社会化			
11	子犬の育て方②お留守番			
12	子犬の育て方③お散歩			
13	愛犬の老後			
14	1 年間の復習			
15	筆記・実技試験			
履修上の注意				
モデル犬を扱います、身だしなみには十分注意すること。				
成績評価				
授業参加度 100%(出席状況、学習態度、筆記試験、実技試験、提出物などをもとに総合的に評価する)				
教科書(授業必携本)/ 毎回持参するもの				
ジャンパー、ポロシャツ、前回までに配布したプリント その他は適宜指示します。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				
山本央子:家庭犬インストラクター。家庭犬育成指導インストラクターとしての経験を活かし、犬の行動原理に基づいた体罰や強制的な方法を使用しない実践的指導を行う				

授業科目	ドッグトレーニング実習Ⅱ(応用)		担当教員	菅 直子／嶋田三那子 山本 央子
科目英名	Practical Training of Companion DogⅡ (Advance)			
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 / 実習	
到達目標				
管理とトレーニング、環境設定と犬の行動の関りを理解し、高い臨床能力を身につける。				
授業概要				
1 年次に学んだ基礎の知識をより細分化し、行動の観察、記録、検証の重要性を学ぶ。生得的行動、習得的行動など、犬の行動と学習をより深く学ぶ。				
授業計画				
1 観察と記録 2 問題行動の予防① 3 問題行動の予防② 4 自発的な行動の強化① 5 吠える 6 複数の犬と暮らす 7 問題行動の予防③ 8 叱らずに育てる 9 受診動作 10 シェイピング 11 ターゲット 12 自発的な行動の強化② 13 行動の分析 14 弁別刺激① 15 弁別刺激② 16 トリック 17 効果的なトレーニング① 18 効果的なトレーニング② 19 臭気探索作業/臭気ゲーム① 20 臭気探索作業/臭気ゲーム② 21 1 年間の復習 22 実技試験 23 弱点の克服				
履修上の注意				
モデル犬を扱います、身だしなみには十分注意すること。				
成績評価				
授業参加度 100%(出席状況、学習態度、実技試験、提出物などをもとに総合的に評価する)				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
ジャンパー、ポロシャツ、前回までに配布したプリント その他は適宜指示します。				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 / 参考書(自主的な学習用)				
特になし				
担当教員の実務経験				
山本央子:家庭犬インストラクター。家庭犬育成指導インストラクターとしての経験を活かし、犬の行動原理に基づいた体罰や強制的な方法を使用しない実践的指導を行う				

授業科目	動物生活環境学実習		担当教員	南村 友紀
科目英名	Practice of Animal Life Emvironment			長岡 恵 久世 よし乃
開講期間	2 学年 通年 必修	科目区分／形式	専門教育科目 ／ 実習	
到達目標				
第1回目から第 4 回目の授業では、動物の食性について知り、実際に作ってみることで、手軽に手に入る素材の中でどのような材料を選び、どのように調理すると動物がきちんと栄養を摂取できるのかを理解する。 第 5 回目から第 8 回目の授業では、足腰の筋肉が低下したペットの、歩行・立ち上がりを補助するサポートハーネスの作り方を習得する。				
授業概要				
第1回目から第 4 回目の授業では、手作りの犬の食事の実習を通して、食事の大切さや素晴らしさを理解できるようになる。 第 5 回目から第 8 回目の授業では、日常身近にある素材(タオル)を使い、ペットの老齢化やケガなどのリスクを軽減するサポートハーネスの制作を行う。				
授業計画				
1 基本的な栄養素の再確認 犬のための健康的なおやつを作る(南村) 2 消化システムの再確認 フレッシュな材料でドッグフードを再現する(南村) 3 栄養計算の仕方と手作り食の栄養素達成度を知る(南村) 4 疾患により栄養上気をつけなくてはいけないことを再確認 食事のできる健康管理(南村) 5 サポートハーネス用キット・テキストを配布・ハーネスの縫製概要の説明 各ミシンの操作説明・ミシン縫いの練習、サポートハーネス制作実習(長岡、久世) 6 サポートハーネス制作実習(長岡、久世) 7 サポートハーネス制作実習・仕上げ(長岡、久世) サポートハーネス完成 8 進行が早く終わった場合は、ハーネス作りの応用として素材・サイズ違いのアレンジの仕方、小物等の制作をレクチャーいたします(長岡、久世)				
履修上の注意				
【第 1 回目～第 4 回目】配布資料を一つにまとめられるよう、ファイルで管理すること。調理器具やシンクを全員で綺麗に清掃すること。				
成績評価				
【第 1 回目～第 4 回目】積極的な授業参加度、授業態度、レポート(50%) 【第 5 回目～第 8 回目】提出レポートより、取り組み姿勢・理解度を確認し、出来上がり作品の完成度で総合評価(50%)				
教科書(授業必携本)／ 毎回持参するもの				
【第 1 回目～第 4 回目】エプロン、筆記用具、ジップロックなどの持ち帰り容器 【第 5 回目～第 8 回目】手持ちの裁縫道具、筆記用具				
事前・事後学修(予習・復習)の内容 ／ 参考書(自主的な学習用)				
【第 5 回目～第8回目】事前アンケートは初日に提出して下さい。(犬に服を着せる事への考え、洋裁の経験等) オンライン上のビデオ(犬に服を着せるメリット・デメリット)を見て自分なりの考え方をまとめておいてください 最終日レポート提出していただきます。				
担当教員の実務経験				
南村友紀:犬の手作り食製造・卸・販売の会社経営の経験を活かし、犬の手作り食について抗議する。				

授業科目	動物実習短期留学		担当教員	橋本 直子 伊藤 真紀
科目英名	Short-term Animal Practical Training Abroad			
開講期間	1・2 学年 通年 選択	科目区分／形式	-	
授業概要				
海外の動物関連施設における実践的な英語及び動物飼育実習の学習を通じて、多文化共生社会における動物関連学問を幅広く学び、グローバルな視野を身に付ける。 渡航先では、オーストラリアの動物園での実習が主体となるが、実用英語のレッスンを受け、現地で必要な英語を身に付ける。 ※社会情勢や最低参加人数に達しない場合は、開講しない場合がある。 海外での実習体験であるため、旅費等を含めた別途費用が必要となる。 ※海外での生活及び実習の受講に支障がない健康状態であること、定められた日程に参加することができる、及び実習先で求められる規律を遵守することを条件とする。 ※開講する場合は、説明会を行うので希望者は参加すること。				
成績評価				
授業参加度 100% (事前学習、事後学習含む)				

授業科目	研修・ボランティア活動		担当教員	橋本 直子 伊藤 真紀
科目英名	Volunteer Study & Activity			
開講期間	1・2 学年 通年 選択	科目区分／形式	-	
授業概要				
動物看護師は、飼い主がペットと安心して生活できる環境を提供出来る知識と能力が求められる。 その活躍の場は、動物病院だけでなく、地域支援、震災時支援、ボランティア活動など様々な場にある。 この授業では、実際に研修(国内・海外)やボランティア活動に参加し、「飼い主と動物」を取り巻く環境に対して、専門職として介入出来る知識と能力を身に付けることを目的とする。 ※社会情勢や最低参加人数に達しない場合は、開講しない場合がある。 ※「国内研修」及び「海外研修」は、旅費等を含めた別途費用が必要となる ※ボランティア活動は、社会情勢により活動しない場合もある。 ※受講希望者は、オリエンテーションに参加すること。 開催日等は、掲示を確認すること。				
成績評価				
授業参加度 50%、レポート 50% (オリエンテーション参加必須、ボランティア参加等1回につきレポート作成)				

學 則

ヤマザキ動物専門学校 学則

ヤマザキ動物専門学校学則

平成7年4月1日

制定

目次

- 第1章 総則（第1条～第4条）
- 第2章 課程、学科、修業年限、定員及び休業日（第5条～第7条）
- 第3章 教育課程、授業時数及び教職員組織（第8条～第13条）
- 第4章 入学、休学、退学、除籍及び卒業（第14条～第23条）
- 第5章 科目等履修生（第24条）
- 第6章 賞罰（第25条・第26条）
- 第7章 入学金、授業料等（第27条～第32条）
- 附則（一部抜粋）

第1章 総則

（目的）

第1条 ヤマザキ動物専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得するために専修学校を設立し、優れた人材を養成することを目的とする。

（名称）

第2条 本校は、ヤマザキ動物専門学校という。

（位置）

第3条 本校の位置を東京都渋谷区松濤2丁目16番5号に置く。

（自己点検・評価）

第4条 本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら点検及び評価（以下「自己評価」という。）を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに公表するものとする。

2 本校は、自己評価の結果を踏まえた本校の関係者による評価（以下「学校関係者評価」という。）を行い、その結果を教育活動等に活用するとともに公表するものとする。

3 前2項に定める自己評価及び学校関係者評価の実施及び結果の公表について必要な事項は、別に定める。

第2章 課程、学科、修業年限、定員及び休業日

（課程、学科、修業年限、定員）

第5条 本校の課程、学科、修業年限及び定員は、次のとおりとする。

昼夜別	課程名	学科名	修業年限	入学定員	総定員	学級数	備考
昼	動物管理 専門課程 (文化・教養)	愛玩動物看護学科	3年	120人	360人	9	
		計		120人	360人	9	

2 ただし、在学年数は修業年限の2倍を超えてはならない。

(学年・学期の終始期)

第6条 本校の学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2 本校の学期は、当該年度の学年暦に基づき、前期と後期の2学期制とする。

(休業日)

第7条 本校の休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間は学年暦で定める。

(4) 創立記念日 12月10日

2 教育上必要があり、かつ、やむを得ない事情があるときは前項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことがある。

3 非常変災その他急迫の事情があるときは、臨時に授業を行わないことがある。

第3章 教育課程、授業時数及び教職員組織

(教育課程、授業時数)

第8条 本校の教育課程及び授業時数は、別表第1のとおりとする。

(授業時数の単位数への換算)

第9条 本校の専門課程の授業科目の授業時数を単位数に換算する場合においては、講義にあっては15時間をもって1単位、実習にあっては30時間をもって1単位とする。

(他の専修学校等における授業科目の履修)

第10条 教育上有益と認めるときは、本校の定めるところにより、生徒が行った他の専修学校、短期大学、大学等における授業科目の履修を、課程の修了に必要な総授業時数の2分の1を超えない範囲で、本校における授業科目の履修とみなすことができる。

(入学前の授業科目の履修等の認定)

第11条 動物管理専門課程愛玩動物看護学科の授業科目において、他の専修学校、短期大学、大学等において履修した授業科目で、出願時に申請があれば、本校の規程に基づいて履修したことを認めることがある。

(始業・終業時刻)

第12条 本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

昼夜別	課程名	始業時刻	終業時刻
昼	動物管理専門課程	9:10	16:20

(教職員組織)

第13条 本校に次の教職員を置く。

(1) 校長

(2) 副校長

(3) 教員 14人以上

(専任9人以上、兼任5人以上)

(4) 事務職員 3人以上

(5) 学校医 1人（兼任）

2 校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。

3 副校長は、校長を補佐する。

第4章 入学、休学、退学及び卒業

(入学資格)

第14条 本校の入学資格は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校又はこれに準ずる学校を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有する者として指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学資格検定に合格した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) 修業年限が3年の専修学校の高等課程を修了した者
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学したものであって、本校において、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めた者
- (9) その他本校において、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めた者

(入学時期)

第15条 本校の入学時期は、毎年4月1日とする。

(入学手続、許可)

第16条 本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書、その他の書類に必要事項を記載し、第26条に定める入学検定料を添えて指定期日までに出席しなければならない。

- 2 前項の手続を終了した者に対して入学試験を行い、入学を決定する。
- 3 本校に入学許可された者は、入学許可の日から14日以内に第26条に定める入学金及び授業料等の半年分を添えて手続をとらなければならない。
- 4 前項にかかわらず、授業料等については校長の判断により分納を認めることがある。

(休学、復学)

第17条 生徒が疾病その他やむを得ない事由によって、休学する場合は、その事由を記載した書類及び診断書を提出して校長の許可を受けなければならない。

- 2 前項の者が復学しようとする場合は、届け出て、校長の許可を受けて復学することができる。

(退学)

第18条 退学しようとする者は、その事由を記載した書類を提出し、校長の許可を受けなければならない。

(編入学)

第19条 動物管理専門課程動物看護・美容・トレーニング学科、愛玩動物看護学科に専修学校・大学等を1年以上在籍又は卒業した者の編入学を本校の規定に基づいて、認めることがある。

(除籍)

第20条 次の各号のいずれかに該当する者は、校長が除籍する。

- (1) 第5条に定める在学年限を超えた者
- (2) 休学期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 授業料の納付を怠り、催促しても、なお納入しない者
- (4) 死亡した者又は長期にわたり、行方不明の者

(卒業、修了の認定)

第21条 校長は、教育課程の定めるところにより、学年ごとに修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する。

(卒業証書の授与)

第22条 本校所定の課程を修了した者には、卒業証書を授与する。

(称号の授与)

第23条 前条に規定するところにより、次の各号に掲げる課程の学科を修了した者に対し、当該各号に定める称号を授与するものとする。

- | | |
|------------------------------|----------------|
| (1) 動物管理専門課程動物看護・美容学科 | 専門士（文化・教養専門課程） |
| (2) 動物管理専門課程動物看護・美容・トレーニング学科 | 専門士（文化・教養専門課程） |
| (3) 動物管理専門課程動物美容・トレーニング学科 | 専門士（文化・教養専門課程） |

第5章 科目等履修生

(科目等履修生)

第24条 本校において開設する授業科目に対し、本校生徒以外の者から特定の科目について履修申請があった場合には、本校の教育に支障がない限り選考の上科目等履修生として当該科目の履修を許可することができる。

2 その他科目等履修生に関する事項は、別に定める。

第6章 賞罰

(褒賞)

第25条 成績優秀にして、他の模範となる者には、褒賞・表彰することがある。

2 その他褒章・表彰に関する事項は、別に定める。

(懲戒)

第26条 生徒がこの学則その他本校の定める諸規則を守らず、生徒としての本分にもとる行為があったときは懲戒処分を行うことがある。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学とする。

3 退学は、次の各号のいずれかに該当する生徒に対して行うものとする。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて、出席が常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者

4 その他懲戒に関する事項は、別に定める。

第7章 入学金、授業料等

(納付金)

第27条 本校の入学検定料、入学金、授業料等は、次のとおりとする。

愛玩動物看護学科（全日3年制）

入学検定料 20,000円

入学金 200,000円

第一年次		第二年次		第三年次	
授業料	850,000円	授業料	850,000円	授業料	850,000円
施設費	280,000円	施設費	280,000円	施設費	280,000円

(納入及び納入の特例)

第28条 生徒がその在籍中は、出席の有無にかかわらず、授業料を所定の期日までに納入しなければならない。

- 2 特別の理由がある場合には、別に定めるところにより、授業料等の分納許可及び授業料等の全部又は一部を減免することがある。

第29条 休学を許可された者は、在籍料を納入しなければならない。在籍料については、別に定める。

(退学・除籍及び停学の場合の授業料)

第30条 学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該学期分の授業料は、徴収する。

- 2 停学期間中の授業料は、徴収する。

(納入金の還付)

第31条 既に納入した授業料、入学金及び入学検定料は、原則として返還しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、入学手続完了後入学辞退をする場合、年度末3月31日までに本校指定の辞退申請書と入学許可書の提出があれば、既に納めた金額のうち入学金及び入学金検定料以外を返金する。

(健康診断)

第32条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより、実施する。

附 則

- 1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。
2 この学則の施行に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(略)

附 則 (令和3年1月21日理事会承認)

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則 (令和3年1月21日理事会承認)

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
2 第5条の規定にかかわらず、令和4年度の各学年の定員は、次のとおりとする。

課程名	学科名	第1学年	第2学年	第3学年	合計
動物管理専門課程	愛玩動物看護学科	120人	80人	—	200人
	計	120人	80人	—	200人

- 3 第5条の規定にかかわらず、令和5年度の各学年の定員は、次のとおりとする。

課程名	学科名	第1学年	第2学年	第3学年	合計
動物管理専門課程	愛玩動物看護学科	120人	120人	80人	320人
	計	120人	120人	80人	320人

附 則 (令和3年4月20日理事会承認)

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。

別表第1（第8条関係）教育課程及び授業時数

愛玩動物看護学科								
区分	授業科目	必選の別	1年次		2年次		3年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	生物学	必	30					
	動物文化論	必					30	
	動物とアートⅠ	必	10					
	動物とアートⅡ	必			20			
	キャリアマネジメント	必				30		
	英語	必		30				
	コンピュータリテラシⅠ（基礎）	必	30					
	コンピュータリテラシⅡ（応用）	必					30	
	アッセンブリーアワーⅠ	必	15	15				
	アッセンブリーアワーⅡ	必			15	15		
	アッセンブリーアワーⅢ	必					15	15
小計（時限）			85	45	35	45	75	15
専門教育科目	専門基礎科目	生命倫理・動物福祉	必	15	15			
		動物形態機能学Ⅰ	必	30	30			
		動物形態機能学Ⅱ（生理学）	必			30	30	
		動物繁殖学	必					30
		動物行動学	必				30	
		動物栄養学Ⅰ（基礎）	必				30	
		動物栄養学Ⅱ（臨床）	必					30
		比較動物学（野生動物、産業動物、実験動物）	必				30	30
		動物看護関連法規	必				15	
		動物愛護・適正飼養関連法規	必					15
		動物看護学概論	必	30				
		動物病理学	必				30	
		動物薬理学Ⅰ（基礎）	必			30		
		動物薬理学Ⅱ（応用）	必					30
		動物感染症学Ⅰ（免疫学）	必		30			
		動物感染症学Ⅱ（微生物学）	必			30		
		動物感染症学Ⅲ（感染症学）	必					30
		公衆衛生学Ⅰ	必			30		
		公衆衛生学Ⅱ（ヒトと動物の共通感染症）	必					30
		小計（時限）		75	75	120	120	165
	専門科目	動物内科看護学Ⅰ（基礎）	必	30				
		動物内科看護学Ⅱ（応用）	必			30	30	
		動物外科看護学Ⅰ（基礎）	必			30		
		動物外科看護学Ⅱ（応用）	必					30
		動物臨床看護学総論	必	30				
		動物臨床看護学各論Ⅰ（基礎）	必		30			
		動物臨床看護学各論Ⅱ（応用）	必			30	30	
		動物臨床看護学各論Ⅲ（臨床）	必					30
		動物臨床検査学	必		30			

	動物医療コミュニケーション	必		30				
	愛玩動物学Ⅰ（愛玩動物特性）	必	30					
	愛玩動物学Ⅱ（エキゾチックアニマル特性・ケア）	必		30				
	コンパニオンアニマルケア論	必			30			
	ドッグトレーニング論	必				30		
	人と動物の関係学	必						30
	適正飼養指導論Ⅰ（適正飼養）	必					30	
	適正飼養指導論Ⅱ（動物災害・危機管理）	必						30
	動物生活環境学	必						30
	ペット関連産業概論	必						30
	動物看護ソーシャルワーク	必						30
	動物看護学総合	必						30
	動物形態機能学実習	必		30				
	動物内科看護学実習	必	60	60				
	動物応用看護学実習	必				60		
	動物臨床検査学実習	必	30	30				
	動物外科看護学実習	必			60	30		
	動物臨床看護学実習	必					30	30
	動物愛護・適正飼養実習	必	60					
	動物看護総合実習Ⅰ	必	30	30				
	動物看護総合実習Ⅱ	必			30	30		
	動物看護総合実習Ⅲ	必					30	30
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅰ（基礎）	必		60				
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅱ（応用）	必			45	45		
	コンパニオンアニマルケア実習Ⅲ（総合）	必					30	
	ドッグトレーニング実習Ⅰ（基礎）	必	30	30				
	ドッグトレーニング実習Ⅱ（応用）	必			45	45		
	動物生活環境学実習	必			30			
	動物看護実習（動物看護コース）	必修						60
	ペット関連産業実習（ペット関連産業コース）	必修						60
	小計（時限）			300	360	330	300	180
選択	動物実習短期留学	選	30					
	研修・ボランティア活動	選	30					
	小計（時限）		60					
1時限時間数（分）			45	45	45	45	45	45
必修科目授業時数			460	480	485	465	420	330
必修選択科目授業時数								60
卒業に必要な総授業時数			460	480	485	465	420	390
教養教育科目・専門教育科目合計			940		950		810	
(必修選択科目の履修方法)								
第3学年においては、必修選択科目（動物看護コースまたはペット関連産業コース）のどちらか一方を選択し履修すること。								

